

平成 29 年度 事業報告書

平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

公益社団法人 日本ファシリティマネジメント協会

はじめに

本資料は、公益社団法人 日本ファシリティマネジメント協会（JFMA）の平成29年4月1日より平成30年3月31日までの事業実施結果についてご報告するものです。

JFMAは、平成24年1月4日に公益社団法人として設立登記を行い、今期が6年目の業務実施となります。

今期も、事業計画に基づき、JFMA定款に掲げる6つの事業、すなわち、ファシリティマネジメントに関する資格認定、教育研修、表彰、調査研究、広報及び交流事業を確実に実施するとともに、あらゆる局面においてコスト削減に努力し業務を推進した結果、5年連続の決算収支黒字化を達成することができました。

今期、大きな成果としては、FMの新教科書『公式ガイド ファシリティマネジメント』を2年の歳月をかけ、1月25日に発刊できたことが挙げられます。FMの教科書としては、2003（平成15）年に『総解説ファシリティマネジメント』を刊行し、その後、2009（平成21）年に『総解説ファシリティマネジメント追補版』を発行、その合計ページ数は約750ページにおよびましたが、このたびの『公式ガイド ファシリティマネジメント』は、約420ページにまとめ、質・量ともに筋肉質の教科書が出来上がりました。2018（平成30）年度より当教科書を使用し認定ファシリティマネジャー資格試験を行うとともに、3月より全国9か所の試験会場開催地で発刊記念セミナーを開催しております。

2月に開催した第12回日本ファシリティマネジメント大会（ファシリティマネジメントフォーラム2018）は、「Hello Next! 働き方を変える、まちを変える。」をテーマに2月21日から23日の3日間、タワーホール船堀にて開催いたしました。今回のフォーラムは、ファシリティそのものをテーマにした講演だけでなく、健康の問題、働き方の問題、ICT等を含めた技術の問題、また、公共施設等の問題、FMのグローバル化、ISOのテーマなど、多岐にわたるテーマでプログラムを組むことができました。

基調講演は、㈱三菱総合研究所理事長の小宮山宏様とサイボウズ㈱代表取締役社長の青野慶久様に、また、提言講演は、総務省行政管理局の松本惇課長補佐、国土交通省土地・建設産業局の横山征成課長に、そして特別講演は元長岡市長で筑波大学、近畿大学客員教授の森民夫様をはじめ金城実様、田澤由利様、松岡利昌様の4名の方々をお招きし、実に豪華な顔ぶれのフォーラム開催となりました。

グローバルFMサミットでは、国際FM協会（IFMA）、欧州FMネットワーク（EuroFM）、韓国、中国、タイのFM関連団体の代表者が、進展する各国のFM活動状況について発表しました。

懇親の場として、ネットワーキングパーティ・JFMA賞受賞祝賀会も、300名近い方々に参加頂き、さらに新企画のワンコイン昼食のコミュニケーションビュッフェも好評でした。

FMのグローバル化も加速し、ISO国際標準化に関しては、ISO41000シリーズとして2013（平成25）年からISO専門委員会TC267で開発されていましたが、JFMAは、国内審議団体として活動し、ISO41011（FM-用語集）、ISO41012（FM-戦略的業務委託と合意書の作成に関する手引き）が国際規格（ガイダンス）として2017（平成29）年4月に発行されました。さらにISO41001（FM-マネジメントシステム-要求事項と利用のための手引き）が2018（平成30）年4月に発行（認証規格）されました。

セミナー・シンポジウム関係につきましては、ウィークリーセミナーや初級FMスクール、サマースクールをはじめ、公共FMシンポジウムを沖縄で開催、健康経営シンポジウムを2017（平成29）年8月から12月まで東京で連続5回開催、ミニFMフォーラムを広島、仙台、福岡で開催するなど、活発にFMの普及活動を展開しました。例年に増してFM普及活動が展開できた一年であったと考えます。

第1号議案 目次

《平成29年度事業報告 -目次》

I. 法人の概況

1. 設立年月日	4
2. 定款に定める目的	4
3. 定款に定める事業内容	4
4. 所管官庁に関する事項	4
5. 会員の状況	4
6. 主たる事務所	4
7. 役員などに関する事項	5
8. 職員に関する事項	5

II. 事業の状況

1. 総会及び理事会	5
2. 委員会（詳細付1.参照）	6
3. 事業内容（公益目的事業）	9
3. 1 ファシリティマネジメントに関する資格認定事業（詳細付2.参照）	9
3. 1. 1 認定ファシリティマネジャー資格試験	9
3. 1. 2 認定ファシリティマネジャー資格登録	9
3. 1. 3 認定ファシリティマネジャー資格更新登録	9
3. 1. 4 総解説「ファシリティマネジメント」の改訂出版	9
3. 2 ファシリティマネジメントに関する教育研修事業（詳細付3.参照）	9
3. 2. 1 初級FMスクール・セミナーの実施	9
3. 2. 2 日本ファシリティマネジメント大会（ファシリティマネジメントフォーラム）でのセミナー	9
3. 2. 3 ウィークリーセミナー	10
3. 2. 4 専門分野別特別セミナー	10
3. 2. 5 ファシリティマネジメント上級セミナー	10
3. 2. 6 公共向けFMセミナー	10
3. 2. 7 JFMA FMサマースクール2017	10
3. 2. 8 ミニFMフォーラム	10
3. 2. 9 健康経営シンポジウム	10
3. 2. 10 通信教育の実施	11

3. 3	ファシリティマネジメントに関する表彰事業 (詳細付4.参照) ……	1 1
3. 4	ファシリティマネジメントに関する調査研究事業 (詳細付5.参照) ……	1 1
3. 4. 1	調査研究部会 ……	1 1
3. 4. 2	ファシリティマネジメント国際標準化 (ISO) 策定作業への対応 ……	1 3
3. 4. 3	海外ファシリティマネジメント調査団 ……	1 3
3. 5	ファシリティマネジメントに関する広報事業 (詳細付6.参照) ……	1 4
3. 5. 1	機関誌「JFMAジャーナル」の定期的な発行 ……	1 4
3. 5. 2	Web版「JFMAジャーナル・オンライン」の運用 ……	1 4
3. 5. 3	ホームページの運用 ……	1 4
3. 5. 4	メールマガジンの定期的な発行 ……	1 4
3. 5. 5	マスメディア、その他広くネットワークを持つ方法の活用 ……	1 4
3. 5. 6	「ファシリティマネジメントフォーラム2018」スポンサー募集とガイドブック等発行 ……	1 4
3. 6	ファシリティマネジメントに関する交流事業 (詳細付7.参照) ……	1 4
3. 7	第12回日本ファシリティマネジメント大会 (ファシリティマネジメントフォーラム2018) ……	1 5
3. 8	その他本協会の目的を達成するために必要な事業 ……	1 5
4.	事業内容 (その他事業：相互扶助事業) ……	1 5
付.	目次 ……	1 6
付1.	委員会 ……	1 7
付2.	資格認定事業 ……	2 1
付3.	教育研修事業 ……	2 6
付4.	表彰事業 ……	4 4
付5.	調査研究事業 ……	4 8
付6.	広報事業 ……	6 4
付7.	交流事業 ……	6 8

I. 法人の概況

1. 設立年月日

平成 8 年 9 月 25 日（旧社団法人日本ファシリティマネジメント推進協会）
平成 24 年 1 月 4 日（公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会）

2. 定款に定める目的

本協会は、企業、団体等が保有又は使用する全施設資産及びそれらの利用環境を経営戦略的視点から総合的かつ統括的に企画、管理、活用する経営活動（以下「ファシリティマネジメント」という。）に関連する多様な活動分野の英知を結集して、ファシリティマネジメントの普及定着に関する事業を行うことにより、安全、安心、快適かつ機能的な施設資産の形成と活用を推進し、もって、良好な社会資本の整備及び地球環境の保全並びにわが国経済の健全な発展に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) ファシリティマネジメントに関する資格認定事業
- (2) ファシリティマネジメントに関する教育研修事業
- (3) ファシリティマネジメントに関する表彰事業
- (4) ファシリティマネジメントに関する調査研究事業
- (5) ファシリティマネジメントに関する広報事業
- (6) ファシリティマネジメントに関する交流事業
- (7) その他本協会の目的を達成するために必要な事業

4. 所管官庁に関する事項

内閣府

5. 会員の状況

平成 29 年度の会員移動状況は次の通りである。

会員種別	平成 29 年 3 月 31 日 ①	入会 ②	退会 ③	差引 ②-③	平成 30 年 3 月 31 日現在 ①+②-③
法人・団体正会員	177	9	-14	-5	172
法人・団体準会員	17	2	-2	0	17
小 計	194	11	-16	-5	189
公 共 特 別 会 員	243	7	-4	3	246
合 計	437	18	-20	-2	435
個人正会員	33	1	-4	-3	30
個人準会員	854	48	-64	-16	838
合 計	887	49	-68	-19	868
総 合 計	1,324	67	-88	-21	1,303

6. 主たる事務所

主たる事務所 所在地：東京都中央区日本橋浜町 2-13-6 浜町ビル 6 階

7. 役員などに関する事項

平成 30 年 3 月 31 日現在を示す

役 職	氏 名	担当職務・現職
会 長	山田 匡通	(株)イトーキ 代表取締役会長
副会長	長島 俊夫	伊藤滋都市計画事務所 PARTNER
	牧 貞夫	NTT都市開発(株) 取締役相談役
	大井清一郎	JR東日本ビルテック(株) 相談役
	村田 誉之	大成建設(株) 代表取締役社長
	岩崎 芳史	日本郵政(株) 代表執行役副社長
	湯淺 哲生	三菱地所(株) 執行役常務
専務理事	成田 一郎	(公社)日本ファシリティマネジメント協会 専務理事
常務理事	村尾 幸彦	(公社)日本ファシリティマネジメント協会 常務理事
理 事	大久保 昇	(株)内田洋行 代表取締役社長
	黒田 長裕	(株)NTTファシリティーズ 代表取締役副社長
	瀬古口芳実	(株)大林組 常務執行役員 東京本店建築事業部 副事業部長
	中村 雅行	(株)岡村製作所 代表取締役社長
	井田 卓造	鹿島建設(株) 建築設計本部 技師長
	黒田 章裕	コクヨ(株) 代表取締役会長
	大西 正修	清水建設(株) 執行役員 建築総本部 設計本部副本部長
	本山 孝	大星ビル管理(株) 代表取締役社長
	坂本 弘光	(株)竹中工務店 役員補佐
	星野 浩明	東急不動産(株) 執行役員 都市事業ユニット都市事業本部長
	長澤 泰	東京大学 名誉教授・工学院大学 名誉教授
	八木 秀記	東京美装興業(株) 代表取締役社長
	中谷憲一郎	(株)日建設計 執行役員 プロジェクトマネジメントグループ代表
	金子 豊	(株)日本経済新聞出版社 代表取締役社長
	六鹿 正治	(株)日本設計 最高顧問
	米川 清水	日本メックス(株) 取締役相談役
	木下 達司	(一社)ニューオフィス推進協会 専務理事・事務局長
	松成 和夫	プロコード・コンサルティング 代表
	板谷 敏正	プロパティデータバンク(株) 代表取締役社長
	米倉誠一郎	法政大学大学院 教授・一橋大学 特任教授
	松岡 利昌	(株)松岡総合研究所 代表取締役
	宮田 歩	三井不動産(株) 執行役員 ビルディング本部 副本部長
	森 浩生	森ビル(株) 取締役副社長執行役員
	染川聡一郎	リコージャパン(株) 理事 社会インフラ事業部
田中 淳	(公社)ロングライフビル推進協会 専務理事	
監 事	秋元 茂樹	東京ガス都市開発(株) 代表取締役社長
	野村 春紀	日比谷総合設備(株) 相談役

注) 記載順序: 会長、副会長、理事及び監事の順、並びに、「担当職務・現職」の 50 音順

8. 職員に関する事項

14 名 (平成 30 年 3 月 31 日現在)

II. 事業の状況

1. 総会及び理事会

1. 1 総会

今期は、通常総会を1回開催し、すべての議案を決議した。

第1回 通常総会	日付	平成29年6月29日(木)
	場所	公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会 6階会議室
	決議事項	1)平成28年度事業報告及び決算報告の件 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)
		2)理事選任の件
報告事項	1)平成29年度事業計画及び収支予算の件 (平成29年4月1日～平成30年3月31日)	

1. 2 理事会

今期は、理事会を次の通り開催し、すべての議案を決議した。

第1回 理事会	日付	平成29年5月25日(木)
	場所	ロイヤルパークホテル 3階 ロイヤルホール
	決議事項	1)平成28年度事業報告及び決算報告の件 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)
		2)理事選任の件
報告事項	1)コンプライアンス活動状況報告	
	2)会員入会報告	
	3)代表理事及び業務執行理事の職務執行状況報告	

第2回 理事会	書面 評決 日	平成29年6月29日(木)
	決議 事項	1)臨時総会招集の件
2)理事選任の件		

第3回 理事会	日付	平成29年10月24日(火)
	場所	ロイヤルパークホテル 4階 瑠璃
	報告 事項	ファシリティマネジメントフォーラム2018、ISO動向等について

第4回 理事会	日付	平成30年3月8日(木)
	場所	ロイヤルパークホテル 2階 春海
	決議 事項	1)平成30年度事業計画及び収支予算の件 (平成30年4月1日～平成31年3月31日)
	報告 事項	1) 会員入会報告
2) 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況報告		

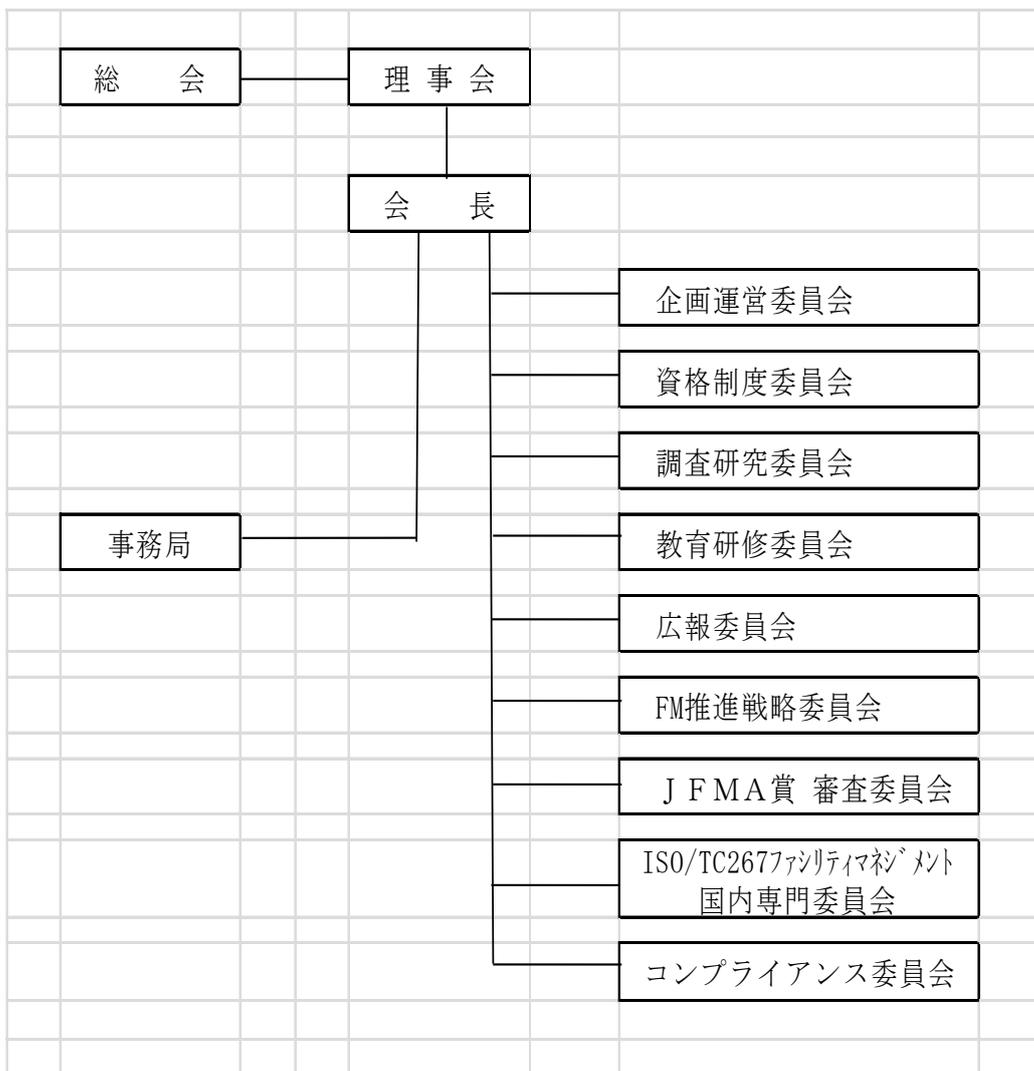
2. 委員会（詳細付1. 参照）

今期は、下記の委員会のもとに事業活動を展開した。

企画運営委員会	役 割	理事会機能を補完するもので、協会中・長期事業計画の策定、単年度事業計画の立案、理事会上程事項の立案、会長諮問事項の審議・答申、各委員会の活動計画の調整、その他協会活動の企画運営業務。		
	委 員 長	赤 川 寛	(株)NTT ファシリティーズ	
	副 委 員 長	重 綱 鉄 哉	(株)イトーキ	
	委 員	他 29 名		
資格制度委員会	役 割	FM資格制度全般の統括業務。		
	委 員 長	沖 塩 荘 一 郎	東京理科大学 名誉教授	
	副 委 員 長	横 山 計 三	工学院大学 教授	
	委 員	他 4 名		
試験委員会	委 員 長	横 山 計 三	工学院大学 教授	
	副 委 員 長	高 野 康 幸	大成建設(株)	
	委 員	他 12 名		
更新講習委員会	委 員 長	松 岡 利 昌	株式会社松岡総合研究所 代表取締役	
	副 委 員 長	_____	_____	
	委 員	他 9 名		
調査研究委員会	役 割	FMの活動に必要な知識・技術・手法の調査研究・開発の立案及び調査研究部会の企画・推進・調整業務。		
	委 員 長	似 内 志 朗	日本郵政(株)	
	副 委 員 長	松 成 和 夫	プロコト・コンサルティング	
	委 員	他 15 名		
教育研修委員会	役 割	FMに関する人材の育成と普及のための教育研修事業の企画・提言及び支援業務。		
	委 員 長	重 綱 鉄 哉	(株)イトーキ	
	副 委 員 長	山 村 晃 永	(株)NTT ファシリティーズ	
	委 員	他 4 名		
広報委員会	役 割	FM及びJFMAの活動の広報と広報戦略の企画・提言及び支援業務。		
	委 員 長	齋 藤 敦 子	コクヨ(株)	
	副 委 員 長	渡 辺 光	ソニーコーポレートサービス(株)	
	委 員	他 6 名		
FM推進戦略委員会	役 割	FM推進に関する戦略展開の企画・提言及び支援業務。		
	委 員 長	板 谷 敏 正	プロパティエターバンク(株)	
	委 員	他 9 名		

J F M A 賞 審査委員会	役 割	日本ファシリティマネジメント大賞（J F M A 賞）の審査。		
	委 員 長	北 川 正 恭	早稲田大学 名誉教授	
	副 委 員 長	深 尾 精 一	首都大学東京 名誉教授	
	委 員	他 9 名		
I S O / T C 267 ファシリティ マネジメント 国内専門委員会	役 割	F M の I S O 国際標準化のため、国内委員会を適時開催して、 関連情報の共有を図るとともに、国内の意見をとりまとめ。		
	委 員 長	長 澤 泰	東京大学・工学院大学 名誉教授	
	副 委 員 長	—	—	
	委 員	他 17 名		
コンプライアンス 委員会	役 割	コンプライアンス施策の検討と実施、施策の実施状況のモニ タリング、コンプライアンス違反事件についての分析・検 討、再発防止策の策定。		
	委 員 長	成 田 一 郎	J F M A 専務理事	
	副 委 員 長	—	—	
	委 員	他 5 名		

J F M A 組織図（平成 29 年度）



3. 事業内容（公益目的事業）

3. 1 ファシリティマネジメントに関する資格認定事業（詳細付2. 参照）

3. 1. 1 認定ファシリティマネジャー資格試験

平成29年7月9日に全国9会場（東京、大阪、札幌、名古屋、福岡、仙台、金沢、広島、高松）で試験を実施し、合否発表を同年9月1日に行った。

また、平成30年度資格試験のための問題作成に着手した。

※ファシリティマネジャー資格認定事業：当協会、一般社団法人ニューオフィス推進協会及び公益社団法人ロングライフビル推進協会の3団体で実施している。

平成29年度 合格者数	455名(合格率:43.9%)	参考 1,036名 (受験者の累計) 1,300名 (申込者の累計)
----------------	-----------------	--

3. 1. 2 認定ファシリティマネジャー資格登録

資格試験合格者の内、一定の実務経験保持者で申請のあった者に対し、「認定ファシリティマネジャー資格者（CFMJ）」の称号を付与し登録した。

平成29年度 登録者数	374名(内、平成29年度合格の登録者 287名) 累計 6,751名 (平成30年3月31日現在)
----------------	---

3. 1. 3 認定ファシリティマネジャー資格更新登録

資格更新が決定した者に対し、資格登録証を発行した。

また、平成30年度更新登録に関する準備に着手した。

平成29年度資格 更新登録者数	1,117名 (平成30年3月31日現在)
--------------------	-----------------------

3. 1. 4 総解説「ファシリティマネジメント」の改訂出版

時代に最適なFMの教科書を作成するため、総解説「ファシリティマネジメント」の見直し作業を行い、「公式ガイド ファシリティマネジメント」として平成30年1月に刊行した。

3. 2 ファシリティマネジメントに関する教育研修事業（詳細付3. 参照）

会員及び会員以外を対象として、ファシリティマネジメントに関する基礎から応用に関わる知識・技術・経験等を広く学習する機会を提供するため、次のセミナー（研修）及び通信教育を行った。すべてのセミナー及び通信教育は、会員に限定せず誰でも受講可能とした。

3. 2. 1 初級FMスクール・セミナーの実施

より一層のFM普及を図るため、初級FMスクールを開催した。1日でFMの基本をマスターする集合講座を、今期は平成29年8月～12月に東京で3回開催し、計71名が受講した。また、テキスト及び副読本として「第四の経営基盤－日本企業が見過ごしてきたファシリティマネジメント」を使用した。

3. 2. 2 日本ファシリティマネジメント大会（ファシリティマネジメントフォーラム）でのセミナー

基調講演、特別講演、一般講演、JFMA賞受賞講演、調査研究部会講演、初級者向け講演、

展示団体講演、パネルディスカッション等、合計 89 件のセミナーで構成した。
受入場者数は 2,354 名、セミナー参加者総数は 7,123 名。

3. 2. 3 ウィークリーセミナー

ファシリティマネジメント各分野の専門家を講師とし、ファシリティマネジメント各分野にわたるテーマでセミナーを J FMA 会議室にて 11 回開催した。
受講者総数は 241 名。(受講者平均 21.9 名)

3. 2. 4 専門分野別特別セミナー

広範なファシリティマネジメント専門分野別に、特別セミナーを開催した。
「調査研究部会 特別公開セミナー ～J FMA FM 秋の夜学校～」と称し、調査研究部会の研究成果をテーマ別公開セミナーとして平成 29 年 9 月～12 月に 18 回開催した。
コンピュータ部会は大阪と名古屋でも発表を行った。
受講者総数は 313 名。

3. 2. 5 ファシリティマネジメント上級セミナー

ファシリティマネジメントの専門分野について、深く掘り下げるセミナーを開催した。
企業、大学、官庁等で専門分野の最先端で活躍する方々を講師陣とし、平成 29 年 11 月に 3 日間開催した。
受講者総数は 60 名。

3. 2. 6 公共向け FM セミナー

「公共施設等総合管理計画」策定後の対応について建築、土木インフラともに実践事例の紹介となるシンポジウムを平成 29 年 11 月に沖縄で開催した。
受講者数は 82 名。

3. 2. 7 J FMA FM サマースクール 2017

FM・総務サービスを組織内で実践する上で必要な基本エッセンス（基本ビジネス能力、ホスピタリティ能力、FM 専門知識・技術）を集中して学ぶセミナーを、平成 29 年 8 月～9 月の 6 日間で開催した。
受講者総数は 123 名。

3. 2. 8 ミニ FM フォーラム

地方での FM の普及・定着を目指し「ファシリティマネジメントは経営を活性化する！」をテーマとし、特に経営者・総務担当者に対して、J FMA 各委員長が参集し、FM の見地から経営に役立つ様々な考え方を紹介する『ミニ FM フォーラム』を平成 29 年 10 月～12 月に広島市・仙台市・福岡市の 3 か所で開催した。
受講者総数は 92 名。

3. 2. 9 健康経営シンポジウム

健康経営を人の視点 (Well-being) と経営の視点の両面から検証し、ファシリティマネジメントの見地から、真に次世代のワークスタイルとしての定着を目指し、健康経営の最新情報、考え方、取り組み事例等を紹介するシンポジウムを平成 29 年 8 月～12 月に都内各所にて 5 回開催した。
受講者総数は 235 名。

3. 2. 10 通信教育の実施

時間的、距離的な制約によりセミナーに参加できない人々を対象に、通信教育を実施した。受講者数は27名。

3. 3 ファシリティマネジメントに関する表彰事業 (詳細付4. 参照)

第12回日本ファシリティマネジメント大賞(JFMA賞)を実施した。

公募による19件を対象とし、審査委員11名が審議した結果、下記の授賞を決定し、ファシリティマネジメントフォーラム2018において授賞式を行った。

《最優秀FM賞(鵜澤賞)》1件

武蔵野市、公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団

(ひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイス -「アクションの連鎖」-)

《優秀FM賞》2件

多摩医療PFI株式会社

(創造的FM手法による公民のパートナーシップの実現-我が国最大の病院PFI事業-)

キューピー株式会社

(グループ協働を促進するFM ~その会話から生まれる 未来とつながる~)

《特別賞》2件

魚町サンロード商店街協同組合

(魚町サンロード商店街におけるリノベーションまちづくり事業)

株式会社スペースRデザイン、吉原住宅有限会社

(築100年を目指すビンテージビル「冷泉荘」におけるFMの取組み)

《技術賞》1件

リユース・パートナー株式会社

(原状回復研究所 ~遊休資産の利活用~)

《功績賞》2件

早稲田大学理工学研究所・公共所有不動産の経営研究(MoRE)

(公共施設マネジメントを実行に移すための解説書)

日本郵政株式会社 本社移転推進室長 齋藤 隆司 氏

(FM推進につながる発注者改革への提言(学位論文))

3. 4 ファシリティマネジメントに関する調査研究事業 (詳細付5. 参照)

ファシリティマネジメントに関する専門分野毎に設置する「研究部会」活動及びファシリティマネジメントISO国際標準化策定作業への対応等を行った。

3. 4. 1 調査研究部会

合計18部会が各々のメインテーマのもとに活動を行った。

(1) マネジメント研究分野

① FM戦略企画研究部会(登録者数:15名)

メインテーマ

都市・地域経営と公共FM戦略 -都市・地域の持続可能性と公共FM戦略-

- ② FMプロジェクトマネジメント研究部会（登録者数：44名）
 メインテーマ
 企業オフィスの日常管理における、「定常的な課題解決」と「次の改善整備」に向けた知見を集積し、企業のFM向上に寄与することを目的に、インハウスFMerと外部PMサービス提供者（50:50）の幅広い見地を成果としてまとめ養成普及に努める
- ③ リスクマネジメント研究部会（登録者数：15名）
 メインテーマ
 ・レジリエンスに関する研究と事業継続に関する報告書の改訂
 ・「帰宅困難者施設受け入れ」に関する検討
 ・災害時の災害弱者対策の検討
- ④ エネルギー環境保全マネジメント研究部会（登録者数：19名）
 メインテーマ
 平成28年度の調査研究項目として持続可能な社会の現状と未来について取り上げ、持続可能な社会の更なる発展には生態系を考慮した総合的なソリューションが必要であると認識できた。そこで、平成29年度は、エネルギー、水、資源、大気を4大テーマとして、持続可能な社会を支えるファシリティマネジメントのあり方等についての調査研究を行う。
- ⑤ CREマネジメント研究部会（登録者数：25名）
 メインテーマ
 中長期的な視点に立脚して企業活動を支えるとともに、企業価値向上に貢献することを目的とした“企業不動産（CRE）マネジメント”に関する体系的な手法研究及び国内企業への普及・促進。
- ⑥ 人と場へのFM投資価値研究部会（登録者数：26名）
 メインテーマ
 人間の感性や行動、更にはウェルビーイングに焦点をあてたFM投資の在り方を探り、知識創造活動を支える「場」への投資意義とその投資効果を可視化することによりFM経営を推進する。
- ⑦ こころとからだのウェルビーイング研究部会（部会員：新規募集中）
 メインテーマ
 ファシリティマネジメントを通じて、人々のウェルビーイング（身体的、精神的、社会的に良好な状態）の実現に貢献し、笑顔と活力の溢れる社会を実現する。
- ⑧ インフラマネジメント研究部会（登録者数：27名）
 メインテーマ
 昨年に引き続き「社会に役立つFM」の実現に向けて、老朽化の進んだインフラに対し官民連携を基本に、包括維持管理によるインフラマネジメント手法の導入を目指し、地方自治体に対するヒアリング、FM的な側面からインフラマネジャー育成及びISOの活用等について調査研究を実施する。

（2）施設事例研究分野

- ① キャンパスFM研究部会（登録者数：36名）
 メインテーマ
 大学経営をFMの視点から支援するために、次項を行う。
 ・啓発普及：大学の経営陣並びに施設及び財務の職員が、キャンパスFMを意識し、その必要性を認識させる。
 ・研究開発：キャンパスFMを実施する際に必要となる概念・手法等を確立させる。
 ・支援活動：施設に係る業務の変革や、キャンパスFMの創造を目指す大学等を支援する。
- ② ヘルスケアFM研究部会（登録者数：38名）
 メインテーマ
 健康・医療・福祉に関わる施設経営戦略を包括的に扱うHC FMの導入・普及。

- ③ 公共施設FM研究部会（登録者数：139名）
 メインテーマ
 パブリックFMの普及推進と安心・安全の社会に向けた公有資産の品質向上への
 取り組み調査・研究。
- ④ ユニバーサルデザイン研究部会（登録者数：16名）
 メインテーマ
 ・ワークプレイスのユニバーサルデザインの価値を明らかにし道具立てをつくる。
 ・健康経営

（3）固有技術研究分野

- ① 運営維持手法研究部会（登録者数：12名）
 メインテーマ
 ～『納得感のもてる最良の運営維持』を目指して～
 ユーザーの視点に立ったファシリティ運営維持業務とその評価に関するあり方を探る。
- ② 品質評価手法研究部会（登録者数：19名）
 メインテーマ
 オフィス・ワークプレイスを中心にしたファシリティの品質について考える。
- ③ FM財務評価手法研究部会（登録者数：26名）
 メインテーマ
 FM財務評価のさらなる普及を目指す。（わかりやすさと裾野の拡大）
- ④ オフィス・ワークプレイスの知的生産性研究部会（登録者数：26名）
 メインテーマ
 知的生産性を支えるワークプレイス・モデル「SOF」（ワークスタイル、組織、
 ファシリティ）の研究開発と、実践のためのツールづくり。
 また、知的生産性に関する関連団体との情報交流、ファシリティマネジメントフォーラム、オフィ
 ス学会や建築学会等での研究成果の発表。
- ⑤ コンピュータ活用研究部会（登録者数：30名）
 メインテーマ
 「FM領域に係わるICT新技術の調査」
 「CAFMシステムの活用事例の調査」
 「Eco・Lcc削減を可能にする環境配慮型ICT新技術の調査」
- ⑥ BIM・FM研究部会（登録者数：51名）
 メインテーマ
 BIM・FM連携ガイドライン作成
 BIM・FM連携によるBIM及びFMの高度化

3.4.2 ファシリティマネジメント国際標準化（ISO）策定作業への対応

FMのISO国際標準化並びに新しいFMのマネジメント規格に対する意見集約のため、国内専門委員会を2回開催した。またマレーシア・クアラルンプールで開催したISO/TC267ファシリティマネジメント国際全体会議に参加し、「ISO/FDIS 41001 FMマネジメントシステム最終国際規格原案」の作成作業に参画した

3.4.3 海外ファシリティマネジメント調査団

平成29年10月14日～21日に、24名で構成する調査団を、海外のファシリティマネジメント事情を調査する目的で、米国西海岸、同西部地区に派遣した。

3. 5 ファシリティマネジメントに関する広報事業（詳細付 6 参照）

ファシリティマネジメントに関する広報を目的として、ホームページの開設運用、メールマガジンの定期的な発行、機関誌の定期的な発行、新聞雑誌等マスコミへの広告、ファシリティマネジメントフォーラムを活用した情報発信と展示会及び地方自治体等公共機関への広報を行った。

3. 5. 1 機関誌「JFMAジャーナル」の定期的な発行

機関誌「JFMAジャーナル」をさらに充実し、新たな特集内容で刊行した。今期は、春夏秋冬（夫々：4月、7月、10月、翌年1月）の年4回、季刊誌として発行し、会員に頒布した。

3. 5. 2 Web版「JFMAジャーナル・ONLINE」の運用

JFMAからの周知事項、会員情報等をタイムリーに知らせる必要があるため、インターネットを利用し、毎月Web上にタイムリーな情報を掲載する「JFMAジャーナル・ONLINE」の運用を行った。

3. 5. 3 ホームページの運用

わが国を代表するファシリティマネジメント関連組織として、随時必要な改定を行い、常に新鮮な情報提供を行った。平成29年度末において、約90万回アクセスのあるウェブサイトとなった。

3. 5. 4 メールマガジンの定期的な発行

ファシリティマネジメントに関する最新情報を、一般向けメールマガジン「JFMAIL」として月平均2回、約7,000人の登録者へ合計26回発信した。

公共機関関係向けのメールマガジン「公共FM推進ネット」は月平均1回、246団体の地方自治体等登録者約280人へ合計16回発信した。

3. 5. 5 マスメディア、その他広くネットワークを持つ方法の活用

FMの広報手段として、マスメディアの活用を行い、外部の各種展示会にブースを出展した。また、会員企業の社内誌等も積極的に協力を頂いた。

3. 5. 6 「ファシリティマネジメントフォーラム2018」のスポンサー募集とガイドブック等発行

会員企業及び会員企業以外の企業51社より数種類のスポンサー（プライム、ダイヤモンド、ゴールド、シルバー、おもてなし、オフィスオアシス）を募った。スポンサー広告を掲載するガイドブックを3,000部発行した。

3. 6 ファシリティマネジメントに関する交流事業（詳細付7. 参照）

今期は、主として下記の交流を行った。

(1) ファシリティマネジメントフォーラムにおける交流

- ・ JFMA賞授賞式とネットワークグパーティーを平成30年2月22日にタワーホール船堀瑞雲の間にて行い、280名の参加を得て交流を行った。

(2) 海外のFM関連団体との交流

- ・ I FMA World Workplace 上海（平成 29 年 9 月 14 日）にて講演を行うとともにセミナー参加と企業展示を視察した。
- ・ ファシリティマネジメントフォーラム 2018 のグローバル FM サミット（平成 30 年 2 月 22 日）において、米国、欧州、韓国、中国、タイから関係者が来日し、各国の最新の FM 事情を発表し、意見交換を行った。

(3) その他

- ・ 国内 FM 関連団体（北海道 FM 協会、四国 FM 協会他）、学会、大学、地方公共団体等とセミナー等で交流した

3. 7 第 12 回日本ファシリティマネジメント大会（ファシリティマネジメントフォーラム 2018）

平成 30 年 2 月 21 日（水）～2 月 23 日（金）の 3 日間、タワーホール船堀（江戸川区船堀 4-1-1）にて第 12 回 日本ファシリティマネジメント大会（ファシリティマネジメントフォーラム 2018）を開催した。

基調講演、特別講演、企画講演、一般講演、J FMA 賞受賞講演、調査研究部会講演、初心者向け講演、シンポジウム、パネルディスカッション、グローバル FM サミット等、合計 89 件のセミナーで構成し、このほかに、23 団体が出展した展示会、J FMA 賞授賞式、ネットワーキングパーティなど多様なプログラムを実施した。

実質入場者数は 2,354 名、セミナー参加者数は 7,123 名。

3. 8 その他、本協会の目的を達成するために必要な事業

J FMA 機関誌「J FMA JOURNAL（ジャフマジャーナル）」の刊行（季刊 13,500 部と調査研究部会特集 3,000 部、合計 16,500 部）に加えて「認定ファシリティマネージャー資格試験問題集－平成 30 年度版」の刊行（計 1,500 部）と「第 4 の経営基盤」の増刷（計 500 部）を行った。

4. 事業内容（その他事業：相互扶助事業）

今期は、主として下記の会員相互の交流を図る事業を行った。

- (1) 法人会員代表者交流会を平成 29 年 10 月 24 日にロイヤルパークホテルにて開催した。
会員企業代表者・関係者が 120 余名来場し、法人会員同士の交流が行われた。
- (2) 新春賀詞交歓会を平成 30 年 1 月 18 日に秋葉原 UDX にて開催した。
例年は J FMA 事務所の会議室で開催しているが、来場者が多数となり個人会員も含めた多くの方々との交流の場を設けることを目的に、大きな会場での開催となった。
企業会員、個人会員、来賓等の関係者の計 200 余名での賀詞交歓会となった。

付. 目 次

付1. 委員会	2 1
1. 企画運営委員会	2 2
2. 資格制度関連委員会	2 2
3. 調査研究委員会	2 2
4. 教育研修委員会	2 3
5. 広報委員会	2 3
6. FM推進戦略委員会	2 3
7. JFMA賞審査委員会	2 4
8. ISO/TC267 ファシリティマネジメント国内専門委員会	2 4
9. コンプライアンス委員会	2 4
付2. 資格認定事業	2 5
1. 認定ファシリティマネジャー資格試験	2 6
2. 認定ファシリティマネジャー資格登録	2 6
3. 認定ファシリティマネジャー資格更新登録	2 6
4. 総解説「ファシリティマネジメント」の改訂刊行	2 7
5. 認定ファシリティマネジャー合格者・資格登録者等の現状	2 8
付3. 教育研修事業	3 0
1. 初級FMスクールの実施	3 1
2. 日本ファシリティマネジメント大会（ファシリティマネジメントフォーラム2018） でのセミナー	3 1
3. ウィークリーセミナー	3 8
4. 専門分野特別セミナー	3 9
5. ファシリティマネジメント上級セミナー	4 1
6. 公共向けFMセミナー	4 2
7. JFMA FMサマースクール2017	4 2
8. ミニFMフォーラム	4 4
9. 健康経営シンポジウム	4 4
10. 通信教育	4 6
付4. 表彰事業	4 9
付5. 調査研究事業	5 3
1. 調査研究部会活動	5 4
2. ファシリティマネジメント国際標準化（ISO）への対応	6 8
3. 海外ファシリティマネジメント調査団	6 8
付6. 広報事業	6 9
1. ファシリティマネジメントに関する広報事業	7 0
2. 機関誌「JFMAジャーナル」の定期的な発行	7 0
3. Web版「JFMAジャーナル・ONLINE」の運用	7 0
4. ホームページの運用	7 0
5. メールマガジンの定期的な発行	7 1
6. 「ファシリティマネジメントフォーラム」のスポンサー募集とガイドブック等発行	7 2
付7. 交流事業	7 3

付 1 . 委員会

付1. 委員会

各委員会を下記のとおり実施した。

1. 企画運営委員会

- (1) 第154回企画運営委員会 平成29年5月9日(火)
主な議題：平成29年度第1回理事会の議案書について
- (2) 第155回企画運営委員会 平成29年8月2日(水)
主な議題：ファシリティマネジメントフォーラム2018企画案について
- (3) 第156回企画運営委員会 平成29年10月3日(火)
主な議題：JFMA運営に関する意見交換
- (4) 第157回企画運営委員会 平成29年12月12日(火)
主な議題：来年度事業計画に関する意見交換
- (5) 第158回企画運営委員会 平成30年2月13日(火)
主な議題：第4回通常理事会の議案書の件について

2. 資格制度関連委員会

A. 資格制度委員会

- (1) 第1回資格制度委員会 平成29年8月23日(水)
主な議題：試験問題、答案の作成及び採点基準の承認、C方式終了考査問題の承認、試験合格者の決定、次年度の資格試験等について
- (2) 第2回資格制度委員会 平成29年10月16日(月)
主な議題：次年度資格試験・更新登録・更新講習の実施計画(案)等について
更新講習B方式(FM活動ポイント方式)について
- (3) 第3回資格制度委員会 平成29年12月22日(金)
主な議題：次年度試験委員・更新講習委員の承認、更新講習修了者の決定等について

B. 試験委員会

- (1) 第3回試験委員会 平成29年4月1日(土)
主な議題：試験問題案の審議等について
- (2) 第4回試験委員会 平成29年4月21日(金)
主な議題：試験問題案の審議等について
- (3) 第5回試験委員会 平成29年7月29日(土)
主な議題：論述採点・試験合格者(案)の作成について
- (4) 第6回試験委員会 平成29年12月15日(金)
主な議題：資格制度委員会等の報告について

C. 更新講習委員会

- (1) 第3回更新講習委員会 平成29年4月10日(月)
主な議題：テキストの修正、追記事項の選択と協議
- (2) 第4回更新講習委員会 平成29年5月8日(月)
主な議題：C方式修了考査問題作成方針審議
- (3) 第5回更新講習委員会 平成29年6月12日(月)
主な議題：C方式修了考査問題作成内容の審議、D方式のPTT作成の審議
- (4) 第6回更新講習委員会 平成29年7月10日(月)
主な議題：C方式修了考査問題最終確認、D方式のPPT作成原稿の審議
- (5) 第7回更新講習委員会 平成29年12月5日(火)
主な議題：更新講習課程修了予定者の確認と承認

3. 調査研究委員会

- (1) 第107回調査研究委員会 平成29年4月27日(木)
主な議題：新研究部会紹介、平成29年度活動方針
- (2) 第108回調査研究委員会 平成29年7月13日(木)
主な議題：調査研究部会の活動状況報告、FM秋の夜学校について
- (3) 第109回調査研究委員会 平成29年11月30日(木)

- 主な議題：調査研究部会の活動状況報告、ファシリティマネジメントフォーラム 2018 発表について
- (4) 第 110 回調査研究委員会 平成 30 年 2 月 1 日 (木)
主な議題：調査研究部会の活動状況報告、平成 30 年度研究部会活動計画、新研究部会の発足について

4. 教育研修委員会

- (1) 第 1 回教育研修委員会 平成 29 年 4 月 25 日 (火)
主な議題：ファシリティマネジメントフォーラム 2017 実施報告について
- (2) 第 2 回教育研修委員会 平成 29 年 7 月 31 日 (月)
主な議題：FMサマースクール 2017 について
- (3) 第 3 回教育研修委員会 平成 29 年 9 月 11 日 (月)
主な議題：ファシリティマネジメントフォーラム 2018 について
- (4) 第 4 回教育研修委員会 平成 29 年 11 月 22 日 (水)
主な議題：J FMA 書物発刊計画(MOOK 本)について
- (5) 第 5 回教育研修委員会 平成 30 年 1 月 25 日 (木)
主な議題：ファシリティマネジメントフォーラム 2018 について
- (6) 第 6 回教育研修委員会 平成 30 年 2 月 16 日 (金)
主な議題：J FMA 書物発刊計画(MOOK 本)について
- (7) 第 7 回教育研修委員会 平成 30 年 3 月 9 日 (金)
主な議題：J FMA 書物発刊計画(MOOK 本)について

5. 広報委員会

- (1) 第 119 回広報委員会 平成 29 年 4 月 28 日 (金)
主な議題：平成 29 年度の広報活動について
- (2) 第 120 回広報委員会 平成 29 年 7 月 27 日 (木)
主な議題：J FMA ジャーナル編集について
- (3) 第 121 回広報委員会 平成 29 年 10 月 27 日 (金)
主な議題：秋の夜学校について
- (4) 第 122 回広報委員会 平成 30 年 1 月 26 日 (金)
主な議題：J FMA ジャーナル編集について
- (5) 第 123 回広報委員会 平成 30 年 3 月 20 日 (火)
主な議題：ファシリティマネジメントフォーラム 2018 について

6. FM推進戦略委員会

- (1) 第 33 回 FM 推進戦略委員会 平成 29 年 4 月 5 日 (水)
主な議題：商業事業者実態調査」の紹介、委員会の眠年度の方針について
- (2) 第 34 回 FM 推進戦略委員会 平成 29 年 6 月 7 日 (水)
主な議題：「国土交通省の官庁営繕事業の動向・不動産投資市場の成長戦略」
／ペルーの最新事情
- (3) 第 35 回 FM 推進戦略委員会 平成 29 年 8 月 2 日 (水)
主な議題：建築プロジェクトにおける発注者の役割」の概要紹介
／大手町本社移転に伴う働き方改革の推進「大手町 JP 流儀」について
- (4) 第 36 回 FM 推進戦略委員会 平成 29 年 10 月 4 日 (水)
主な議題：ESG 投資に対応する認証構築などの国土交通省の取り組み
／働きかた改革に関する J FMA の提言案について
- (5) 第 37 回 FM 推進戦略委員会 平成 29 年 12 月 6 日 (水)
主な議題：国土交通省 ESG 投資の普及促進に向けた認証制度に関する最新動向
ISO の動向、委員会作成予定の FM 関連ビジョンに関する討論
- (6) 第 38 回 FM 推進戦略委員会 平成 30 年 2 月 7 日 (水)
主な議題：公式ガイド ファシリティマネジメントの発刊にあたってその勘所、
建物及び部位・設備の寿命と最適更新周期に関する研究、
委員会作成予定の FM 関連ビジョンに関する討論

7. JFMA賞審査委員会

- (1) 第1回JFMA賞審査委員会 平成29年10月18日(水)
主な議題：表彰規程概要確認、第12回JFMA賞応募事例について意見交換、
現地調査候補の選定、今後の進め方について
- (2) 第2回JFMA賞審査委員会 平成29年12月12日(火)
主な議題：各賞推薦対象案件説明、各賞入賞案件決定、今後のスケジュールについて

8. ISO/TC267 ファシリティマネジメント国内専門委員会

- (1) 第7回ISO/TC267ファシリティマネジメント国際全体会議
平成29年9月27日(水)～29日(金)、マレーシア・クアラルンプールにて開催
主な議題：「ISO/FDIS 41001 FMマネジメントシステム最終国際規格原案」の作成に
ついて
- (2) 第14回ファシリティマネジメント専門委員会(TC267) 平成29年7月13日(木)
主な議題：ISO/TC267 FMクアラルンプール国際会議への対応について
- (3) 第15回ファシリティマネジメント専門委員会(TC267) 平成30年2月8日(木)
主な議題：ISO/FDIS 41001 FMマネジメントシステム最終国際規格原案の投票への対
応について

9. コンプライアンス委員会

- (1) 第13回コンプライアンス委員会 平成30年1月22日(月)
主な議題：職員証有効期限等について
- (2) 第14回コンプライアンス委員会 平成30年3月12日(月)
主な議題：働き方改革について

付 2. 資格認定事業

付2. 資格認定事業

ファシリティマネジメントの専門家として、「ファシリティマネジャー資格者」を一般社団法人ニューオフィス推進協会及び公益社団法人ロングライフビル推進協会と連携して認定する。このため、認定ファシリティマネジャー資格試験、資格登録、資格更新を制度化している。資格試験を平成9年度から毎年1回実施し、平成29年度までに、13,219名の合格者を輩出し、認定した資格登録者総数は6,751名である。受験資格は定めず、誰でも受験できるが、資格登録のためには、一定の実務経験を要することを定めている。資格の有効期間を5年とし、資格更新のために必要な講習会を毎年3回実施している。認定ファシリティマネジャー資格者は、わが国及び海外の企業団体等にあつて、ファシリティマネジメントの実務を担っている。

1. 認定ファシリティマネジャー資格試験

次の通り実施した。

- | | |
|------------|---|
| (1) 試験日 | 平成29年7月9日(日) |
| (2) 試験会場 | 東京 立教大学 8号館、15号館
大阪 マイドームおおさか
札幌 北海道経済センター
名古屋 名古屋商工会議所
福岡 福岡商工会議所
仙台 国際マルチビジネス専門学校
広島 広島YMCA 3号館
金沢 石川県教育会館
高松 高松商工会議所 |
| (3) 試験内容 | 学科試験及び論述試験 |
| (4) 受験申込期間 | 平成29年4月3日(月)～同年5月12日(金) |
| (5) 合否発表 | 平成29年9月1日(金) |
| (6) 申込者数 | 1,300名 |
| (7) 受験者数 | 1,036名 |
| (8) 合格者数 | 455名(43.9%) |

2. 認定ファシリティマネジャー資格登録

認定ファシリティマネジャー資格試験の合格者のうち、一定の実務経験保持者で申請のあった者に対し、「認定ファシリティマネジャー資格者(CFMJ)」の称号を付与し登録する。登録申請は、試験合格の後、いつでも行うことができるが、合格後5年を経過した場合、更新講習を受講することを要する。今年度登録者数は374名。内、今年度合格した者は287名。

3. 認定ファシリティマネジャー資格更新登録

認定ファシリティマネジャー資格の有効期間が5年であることから、資格有効期間が満了する者を対象として、次の4とおりの方式で資格更新を行う。

なお、すでに資格有効期間が過ぎ更新していない者があらためて資格登録を希望する場合、及び試験合格後5年を経過した者がはじめて資格登録を行おうとする場合、下記の「C方式(在宅講座)」または、「D方式(集合講座)」を受講することにより資格登録を行うことができる。

- (1) 方式
 - A 個人会員
 - B FM活動ポイント
 - C 在宅講座
 - D 集合講座
- (2) 申込受付期間
平成29年8月1日(火)～同年9月20日(水)
- (3) D方式による集合講座の日程と開催地

- 東京 1 回目 平成 29 年 10 月 5 日(木) (科学技術館)
東京 2 回目 平成 29 年 10 月 6 日(金) (科学技術館)
大阪 平成 29 年 10 月 20 日(金) (大阪商工会議所)
- (4) 更新者の数 合計 1,117 名 (平成 30 年 3 月 31 日現在)
- A 方式 167 名
B 方式 30 名
C 方式 281 名
D 方式 639 名

4. 総解説「ファシリティマネジメント」の改訂刊行

わが国ファシリティマネジメントの標準的テキストであり、認定ファシリティマネジャー資格試験の出題ソースとして使われている「総解説ファシリティマネジメント」(2003 年刊)及び「総解説ファシリティマネジメント追補版」(2009 年刊)の見直しを実施し、「公式ガイド ファシリティマネジメント」として平成 30 年 1 月に刊行した。

また、刊行に併せその内容とポイントをセミナー形式で解説する機会を設けた。平成 29 年度内の開催は以下のとおり。

- 平成 30 年 3 月 7 日 (水) 福岡商工会議所
平成 30 年 3 月 16 日 (金) 大阪科学技術センター
平成 30 年 3 月 23 日 (金) 広島商工会議所
平成 30 年 3 月 30 日 (金) 高松商工会議所

5. 認定ファシリティマネジャー合格者・資格登録者等の現状

(1) 認定ファシリティマネジャー 合格者／登録者の内訳

認定ファシリティマネジャー(CFMJ) 資格者統計データ(受験者数・合格者数・資格登録者数)

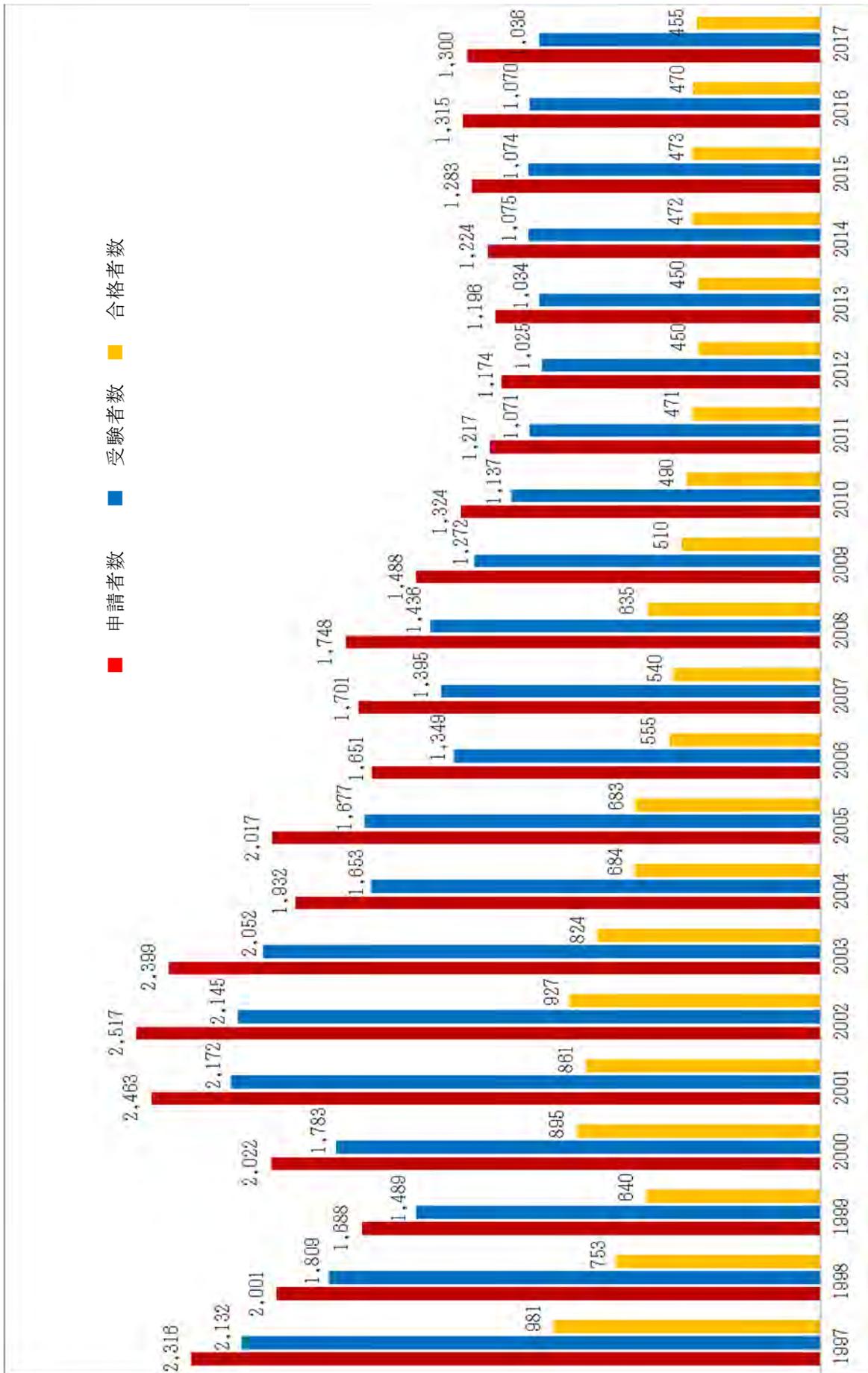
2018年3月31日 現在

年度	資格試験 CFMJ(日本)				合格者 CFMJ(日本)								資格登録者 CFMJ(日本) ^{※1}			相互認証 資格登録者 CFM(米国) ^{※2}		
	受験 申込者 (人)	受験 者(A) (人)	合格 者(B) (人)	合格 率 B/A (%)	平均 年齢 (歳)	最 高 年 齢 (歳)	最 低 年 齢 (歳)	男 性 (人)	男 性 比 率 (%)	女 性 (人)	女 性 比 率 (%)	新 規 登 録 者 (人)	更 新 登 録 者 (人) ^{※3}	有 効 登 録 者 (人)	新 規 登 録 者 (人)	更 新 登 録 者 (人)	有 効 登 録 者 (人)	
1 1997年 (平成9年度)	2,316	2,132	981	46.0	40.0	70	25	941	95.9	40	4.1	1,660 ※4	-	1,660	-	-	-	
2 1998年 (平成10年度)	2,001	1,809	753	41.6	39.3	64	25	720	95.6	33	4.4	862 ※4	-	2,522	-	-	-	
3 1999年 (平成11年度)	1,688	1,489	640	43.0	39.0	65	25	605	94.5	35	5.5	772 ※4	-	3,294	-	-	-	
4 2000年 (平成12年度)	2,022	1,783	895	50.2	39.5	61	25	864	96.5	31	3.5	895	-	4,189	-	-	-	
5 2001年 (平成13年度)	2,463	2,172	861	39.6	39.1	64	22	815	94.7	46	5.3	634	-	4,823	972	-	972	
6 2002年 (平成14年度)	2,517	2,145	927	43.2	39.2	63	20	882	95.1	45	4.9	694	959	5,517	160	-	1,132	
7 2003年 (平成15年度)	2,399	2,052	824	40.2	37.7	66	22	761	92.4	63	7.6	635	743	5,437	31	155	897	
8 2004年 (平成16年度)	1,932	1,653	684	41.4	39.5	61	20	633	92.5	51	7.5	527	575	5,858	51	113	941	
9 2005年 (平成17年度)	2,017	1,677	683	40.7	37.7	62	20	621	90.9	62	9.1	550	514	6,212	45	54	886	
10 2006年 (平成18年度)	1,651	1,349	555	41.1	37.0	68	22	494	89.0	61	11.0	448	527	6,279	35	31	835	
11 2007年 (平成19年度)	1,701	1,395	540	38.7	37.9	61	20	491	90.9	49	9.1	433	1,165	6,514	9	22	667	
12 2008年 (平成20年度)	1,748	1,436	635	44.2	36.1	65	19	568	89.4	67	10.6	466	892	6,540	12	26	384	
13 2009年 (平成21年度)	1,488	1,272	510	40.6	41.6	66	20	456	89.4	54	10.6	413	783	6,468	13	7	293	
14 2010年 (平成22年度)	1,324	1,137	490	43.1	39.5	65	21	432	88.2	58	11.8	376	748	6,363	9	4	162	
15 2011年 (平成23年度)	1,217	1,071	471	43.8	38.7	62	21	419	89.0	52	11.0	380	683	6,406	61	3	161	
16 2012年 (平成24年度)	1,174	1,025	450	43.9	39.1	67	21	406	90.2	44	9.8	389	1,176	6,521	191	82	382	
17 2013年 (平成25年度)	1,196	1,034	450	43.5	38.8	65	24	394	87.6	56	12.4	391	986	6,453	-	-	333	
18 2014年 (平成26年度)	1,224	1,075	472	43.9	39.0	62	21	413	87.5	59	12.5	398	878	6,447	-	-	333	
19 2015年 (平成27年度)	1,283	1,074	473	44.0	40.3	67	22	417	88.2	56	11.8	426	823	6,565	-	-	302	
20 2016年 (平成28年度)	1,315	1,070	470	43.9	41.1	69	21	407	86.6	63	13.4	387	807	6,645	-	-	261	
21 2017年 (平成29年度)	1,300	1,036	455	43.9	39.4	68	22	380	83.5	75	16.5	374	1,117	6,751	-	-	170	
1997-2017 年度累計	35,976	30,886	13,219	-	-	-	-	12,119	-	1,100	-	-	-	-	-	-	-	

★各年度の資格登録者数は3月31日時点のものです。但し、最新年度は上記の日付に従います。
CFMJ(Certified Facility Manager of Japan)
日本のFM資格制度協議会が認定するファシリティマネジャー資格
CFM(Certified Facility Manager)
--米国の国際ファシリティマネジメント協会(IFMA:International Facility Management Association)が認定するファシリティマネジャー資格

- 1.登録者とは、資格の新規登録申請を行い、認定ファシリティマネジャー(CFMJ)となった方です
- 2.相互認証CFM資格登録者とは、CFMJ資格登録後、相互認証制度により、CFM資格登録を行った方です
- 3.資格更新登録者には、登録有効期間(合格または更新後5年)の満了にともない継続して登録した方、登録有効期間を過ぎて失効し再登録した方、資格試験合格後5年以内に初回登録をせず更新講習を受講した後に新規登録をした方、が含まれます。
- 4.1997年度・1998年度・1999年度の新規資格登録者には、それぞれ、特別講習修了者、679人・109人・132人がそれぞれ含まれます。但し、特別講習は、1997年度から3か年の特別措置として実施され、現在は終了しています。

(2) 認定ファシリティマネジャー資格 受験者/合格者の年度別推移



付 3 . 教育研修事業

付3 教育研修事業

1. 初級FMスクールの実施

ファシリティマネジメントの初心者を対象とした初級FMスクールを、初心者用テキスト及び副読本には「第四の経営基盤」を用いて、計3回開催し、合計77名が受講した。

テーマ	「FMを知る。経営を知る」
開催日時	【第1回】平成29年8月7日(月)10時00分～17時30分 【第2回】平成29年10月13日(金)10時00分～17時30分 【第3回】平成29年12月1日(金)10時00分～17時30分
場所	東京：JFMA会議室 【第1回～第3回】、
講師	松岡 利昌(株式会社松岡総合研究所 代表取締役) 松成 和夫(プロコード・コンサルティング代表) 似内 志朗(日本郵政株式会社 不動産企画部部長) 成田 一郎(JFMA専務理事)
受講料	会員10,000円 非会員15,000円
受講者	【第1回】26名 【第2回】25名 【第3回】20名

2. 日本ファシリティマネジメント大会(ファシリティマネジメントフォーラム 2018)でのセミナー

- (1) テーマ Hello Next! 働き方を変える、まちを変える。
- (2) 日程 平成30年2月21日(水)～23日(金)
- (3) 会場 タワーホール船堀(江戸川区船堀4-1-1)都営新宿線船堀駅前)
- (4) 来場者数 実質入場者数は2,354名、セミナー参加者数は7,123名。
- (5) プログラム構成
次のとおり、合計89件で構成。
 - ① 基調講演 … 2件
 - ② 特別講演 … 4件
 - ③ 提言講演 … 2件
 - ④ JFMA賞受賞講演(平成29年度JFMA賞優秀ファシリティマネジメント賞受賞者による受賞内容に関する講演) … 7件
 - ⑤ 公募講演・研究部会発表等 … 66件
 - ⑥ 初級FMセミナー … 1件
 - ⑦ シンポジウム … 6件
 - ⑧ グローバルFMサミット … 1件
 - ⑨ 展示会出展者 23社(団体)

2/21日(水) セミナー・イベントスケジュール

00: 概要紹介ページ

時間	会場
13:30 ┆ 13:40	5F 大ホール
	主催者挨拶
	山田 匡通 JFMA会長 02
13:40 ┆ 15:10 (90分)	基調講演
	働き方改革より「働き方の多様化」
	青野 慶久 サイボウズ 代表取締役社長 10
15:20 ┆ 16:10 (50分)	提言講演
	これからの時代の働き方 —シームレスワークへの挑戦—
	松本 惇 総務省行政管理局企画調整課 課長補佐 11
16:20 ┆ 16:50 (30分)	提言講演
	不動産投資市場の成長に向けた取り組み —健康性、快適性等に優れた不動産に係る 認証制度のあり方について—
	横山 征成 国土交通省 土地・建設産業局 不動産市場整備課長 11
17:00 ┆ 18:00 (60分)	特別講演
	海外FM最前線 —欧米からアジアFM市場の激変—
	松岡 利昌 松岡総合研究所 代表取締役 12
18:10 ┆ 19:00 (50分)	新FM教科書発刊記念講演
	「公式ガイド ファシリティマネジメント」の概説
	丸山 玄 「公式ガイド ファシリティマネジメント」 出版編集会議 委員 12
19:10 ┆ 20:00 (50分)	初級FM講座
	FMの基本を学ぶ —JFMA賞の事例から—
	成田 一郎 JFMA専務理事 13



山田 匡通
JFMA会長

基調講演



青野 慶久
サイボウズ株式会社
代表取締役社長

提言講演



松本 惇
株総務省 行政管理局
企画調整課 課長補佐

提言講演



横山 征成
国土交通省
土地・建設局
不動産市場整備課長

特別講演



松岡 利昌
株式会社
松岡総合研究所
代表取締役

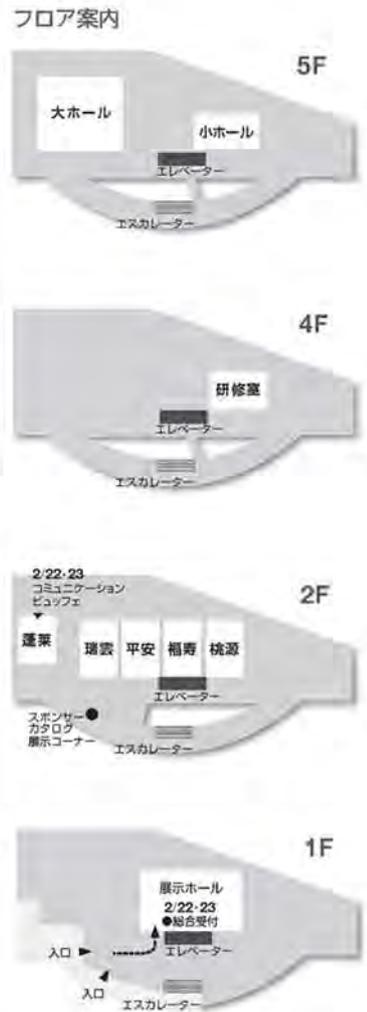
2/22日(木) セミナー・イベントスケジュール

9:30~ 9:50	オープニングセレモニー 1F 展示会場			
会場	5F 大ホール			
時間	基調講演 小宮山 宏 三菱総合研究所 理事長 『プラチナ社会の実現と働き方』 第28代東京大学総長			
(50分)	昼休み 5F 小ホール 働き方・WELL	コミュニケーション ビュッフェ 2F 蓬 菜 企業プレゼン 他	2F 瑞 雲 マーケット	2F 平 安 オフィス・働き方
10:20 ↓ 11:50 (90分)				
12:40 ↓ 13:20 (40分)	健康経営シンポジウム 健康経営と ウェルビーイング 紺野春菜 東川麻子 <small>経済産業省 OHコンサルシブ/産業</small> 似内志朗 医 <small>日本郵政</small> 齋藤敦子 今井康博 <small>コクヨ 大林組</small> 西本真寛 高原 良 <small>Campus for H イトーキ</small> 仲田裕紀子 <small>JFMAジャーナル編集長</small> 15	2F 蓬 菜 11:30~13:00 500円/人 (先着200名) コミュニケーションビュッフェ 片付け	病院 FMシンポジウム FMの未来のステージを求めて -FMとサービス マネジメントの融合- 和泉 隆 帝京大学 加藤哲夫 アイネット・システムズ 宇賀神 満 NTT東日本関東病院 聖路加国際病院 門田美和子 聖路加国際病院 森 佐枝 多摩医療PFI 17	異分野融合を促進する 研究開発拠点のつくり方 池田晃一 <small>岡村製作所</small> 19 在宅ワークをFM視点で考える -ホームオフィス検証実験紹介- 岡田みおり <small>FMプロジェクトマネジメント研究部会員</small> 19
13:30 ↓ 14:10 (40分)				
(25分)	インターミッション(25分)			
14:35 ↓ 15:15 (40分)	特別講演 健康診断とがん検診では病気も メンタル不調も減らない! 金城 実 14 <small>(一社)日本予防医療協会 代表理事</small>	FMシステム / 石曾根 栄之 BIMとFMによる 施設情報マネジメント プロパティデータバンク / 岩尾 元 プロパティを活用した ファシリティマネジメント	コスト削減?CO ₂ 削減? FM視点で見る 新電力4つのポイント 池田良太 18 <small>オーベラス・ジャパン</small>	「近未来オフィス& オフィスビル」の行方! 「オフィスビル2030」 共著者22名登場 <第一部> 「序章+第1章+第2章」 司会進行: 本田広昭 <small>オフィスビルディング研究所</small> <第二部> 「第3章+第4章+第5章」 司会進行: 太田三津子 不動産ジャーナリスト 20
15:25 ↓ 16:05 (40分)	JFMA 賞 授賞式 準備	NTT ファシリティーズ中国 / 丹藤卓也 NTT ファシリティーズの ワークプレイスへの取り組み JR 東日本ビルテック / 田上祐士 駅・駅周辺施設での FM実践	FMが変わる! 「実践マーケティング」 のすすめ -出版記念講演- 鈴木 隆 大阪ガス 18	
(25分)	インターミッション(25分)			
16:30 ↓ 17:10 (40分)	第12回 日本ファシリティ マネジメント大賞 -JFMA賞- 15:50 受付 16:10 開会	エフエム・スタッフ / 青木昭夫 エフエム・スタッフが提供する FM サービスのご紹介 内田洋行 / 橋本雅司 ICTを活用した 会議変革アイデアの紹介 45	FMで考える商業施設、 駅ビルの空間価値形成 -出版記念講演- 池澤威郎 名古屋市立大学 18	ワークとライフのあり方から考える 働き方改革「Work in Life Labo」 森田 舞 岡村製作所 藤澤理恵 リクルートマネジメントソリューションズ 増原裕子 トロワクルール 20
17:20 ↓ 18:00 (40分)	授賞式 16	チェンジ・ワーキング 働き方変革の成功要因 -出版記念講演- 平山 信彦 内田洋行 17	ネットワーキング パーティ 準備	
(30分)	インターミッション(30分)			
18:30 ↓ 20:00	ネットワーキングパーティー・JFMA賞受賞祝賀会 18:30~20:00 受付 18:00 参加費 5,000円(会員・非会員共)			

14		
昼休み		
2F 福寿 ISO/グローバル	2F 桃源 保全・働き方	4F 研修室 調査研究部会
FMのISO41000シリーズの現状 川村正夫 JFMA 21	施設維持管理データが、働き方を変える! 柳 良和 住友セメントシステム開発 22	公共FM シンポジウム 公共施設等総合管理計画の取組みについて: 地方小都市の事例 海外の参考事例 【公共施設FM研究部会】 安藤秀徳 東京美装興業 戸部隆之 群馬県沼田市 【インフラマネジメント研究部会】 幸野 茂・渡邊大介 カイアート 25
アセットマネジメントシステム (ISO 55001) の現状と普及拡大に向けた動向 青木 泉 日本環境認証機構 21	アンチエイジングを担保する建物維持保全計画 - 中小規模ビルでの事例 - 秋山克己 日本メックス 23	【FM財務評価手法研究部会】 「公費付 ファシリティマネジメント」におけるFMの財務評価 松成和夫 フロコールドコンサルティング 26
面積基準の国際的動向 - 国際不動産測定基準 (IPMS) の実務AMの視点から - 飯島中夫 RICSジャパンカウンシル 三井不動産投資顧問 21	マースジャパンの健康経営 常木一成 マースドリンクスジャパン 23	【ヘルスケアFM研究部会】 部会活動の報告と展望 上坂 修 ヘルスケアFM研究所 新病院移転とヘルスケアFM - 理念の実践に向けて - 平沼昌弘 石心会埼玉石心会病院 26
グローバル FM サミット IFMA Euro FM 韓国 中国 タイ コーディネータ: 松岡利昌 JFMA理事 アシスタント コーディネータ: 三島佳名恵 大成建設 川村正夫 JFMA 22	働き方改革を具現化するスマートウエルネスオフィス 丸山 玄 大成建設 23	【エネルギー環境保全マネジメント研究部会】 内包する環境価値の重要性と環境建築事例 横山健児 NTTファシリティーズ 26
	大学附属病院および大学施設における保全記録データに基づく保全優先度の把握 須藤美音 名古屋工業大学 高草木明 日本メックス 24	【ユニバーサルデザイン研究部会】 健康経営とファシリティマネジメント 似内志朗 日本郵政 27
	アスベスト対策の重要性と最新の社会情勢 宮崎恒一 エコ・24 24	

展示会
1F 展示ホール

10:00
〜
18:30



基調講演



小宮山 宏
株式会社三井物産研究所
理事長
前 21 代東京大学総長

特別講演



金城 実
一般社団法人
日本予防医療協会
代表理事

2/23日(金) セミナー・イベントスケジュール

会場	5F 小ホール	2F 蓬 萊	2F 瑞 雲	2F 平 安
区分	特別講演・他	企業プレゼン	JFMA賞受賞講演	働き方・WELL
時間				
10:20 ↓ 11:00 (40分)	特別講演 新しい価値を創造した公共建築物「アオーレ長岡」 -企画から管理まで一貫した総合的マネジメントの重要性- 森 民夫 筑波大学 客員教授 28	コミュニケーションビュッフェ 準備 「未来のオフィス」アイデアコンテスト表彰式 11:30~ コミュニケーションビュッフェ 2F 蓬莱 11:30~13:00 500円/人 (先着200名) コミュニケーションビュッフェ 片付け	【最優秀FM賞(鶴澤賞)】 ひとまち情報館 武蔵野Preis -「アクションの連鎖」- 東京都武蔵野市、公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団 30	ホワイトカラーの働き方「真の」改革のために 宮崎 敬 オフィスリノベーション 34
11:10 ↓ 11:50 (40分)			【優秀FM賞】 創造的FM手法による公民のパートナーシップの実現 -我が国最大の病院PFI事業- 多摩医療PFI 31	イノベーションを促進する働き方改革とワークプレイス 藤藤敦子 ココヨ 34
(50分)	昼休み			
12:40 ↓ 13:20 (40分)	特別講演 働き方改革を成功させるテレワーク -ファシリティマネジメントの視点から- 田澤由利 テレワークマネジメント 代表取締役 28		【優秀FM賞】 グループ協働を促進するFM -その会話から生まれる未来とつながる- キュービー 31	「はたらく」の未来予想図 -出版記念講演- 鯨井康志 岡村製作所 35
13:30 ↓ 14:10 (40分)			【功績賞】 公共施設マネジメントを実行に移すための解説書 早稲田大学理工学研究所 公共所有不動産の経営研究(MoRE) 32	クラウド型分析ツール提供サービスによる省エネの支援 寺岡慎介 高砂製糖工業 35
(25分)			インターミッション(25分)	
14:35 ↓ 15:15 (40分)	発注者の役割-1(公共編) 官公庁施設整備における発注者のあり方について 頼本欣昌 国土交通省	大成建設 / 丸山 玄 健康経営を実現するワークプレイスづくりに関する実践事例 コアネットジャパン / 松里 裕子 高山 裕之 / 犬丸 礼 「コアネット・グローバル」CREプラットフォーム	【特別賞】 魚町サンロード商店街におけるリノベーションまちづくり事業 魚町サンロード商店街 協同組合 32	組織の創造活動におけるワーカーのキャラクター・働き方分析について 田中勇一 イトーキ 35
15:25 ↓ 16:05 (40分)	発注者の役割-2(民間編) 発注者の役割の大切さと発注者評価マトリックスについて 片田和範 立命館大学 羽川綾子 レンドリース・ジャパン 29	高砂製糖工業 / 寺岡慎介 施設の省エネと環境管理ツールGODA クラウド 構造計画研究所 / 秋元正博 IoTで実現する未来のオフィスデザイン	【特別賞】 築100年を目指すビンテージビル「冷泉荘」におけるFMの取組み 吉原住宅 スペースRデザイン 33	LEED&WELLは、未来における働く環境のあるべき姿を訴求 本田広昭 グリーンビルディングジャパン 浦島 茂 グリーンビルディングジャパン 今井康博 大林組 米田桜子 ジョインマンコントロールズ 木下良介 ヴォンエルフ 36
(25分)			インターミッション(25分)	
16:30 ↓ 17:10 (40分)	発注者の役割-3 シンポジウム より良き発注者とは? -発注者の役割・責任を考える- 齋藤隆司 日本郵政 古阪秀三 立命館大学 平野吉信 広島大学 頼本欣昌・片田和範 羽川綾子 29	住友セメントシステム開発 / 前澤孝之 施設維持管理データがもたらす経営の見える化 ザイマックスインフォニスタ / 鶴岡朋恵 働き方改革を支えるオフィスのあり方とは	【技術賞】 現状回復研究所 -遊休資産の利活用- リユース・パートナー 33	戦略実現のための居抜きを活用した中小規模オフィス移転 八塚裕太郎・日比野亮二 ヒトカラメディア 36
17:20 ↓ 18:00 (40分)		Offisiz / 田野宏一 オフィスワーカーのための新健康サービスの提案 46	【FMムック本発刊予定講演】 金英範・川村裕 ユーザー懇談会 教科書には書けない「FM・総務のみなさまへのメッセージ」 34	創業の地 渋谷から八ヶ岳高原へ 本社移転とスローシティ開発20年の軌跡 山下哲雄 アサヒファシリティズ 36

2F 福寿 評価・グローバル	2F 桃源 公共・IT	4F 研修室 調査研究部会
定量的なプロジェクトの評価方法 -働く人の意識を可視化する- 平出英仁 ディーサイン 37	不動産テック FMテックの時代 武野貞久 プロバティデータバンク 39	【リスクマネジメント研究部会】 訓練だけで全てを対応できないが、訓練無くして対応はできない 白田修一 日本アムウェイ 42
事業戦略と施設戦略をつなぐ実践手法 川原 秀仁 山下ピーエム・コンサルタンツ 37	歴史と文化を継承するリノベーション 楠本正幸 NTT都市開発 40	【運営維持手法研究部会】 運営維持の視点で「きっかけづくり」実務者が語る身近な省エネルギーの話まとめ 吉瀬 茂 工学院大学 他 42

昼休み

日本企業のFMグローバル化の潮流と現状課題 クレイグ・カックス エフエムパートナーズ・ジャパン 金 英範 日産自動車 37	建築プログラミングとFMの可能性 -三重県総合博物館整備他を 実例として- 安藤 亨 三重県庁 40	【BIM・FM研究部会】 「ファシリティマネジメントのためのBIMガイドライン」について 猪里孝司 大成建設 43
グローバルな視点からみた日本の働き方とオフィス戦略 石崎真弓 サイマックス不動産総合研究所 38	発注者とのIPDを目的とした新築プロジェクトへのBIM導入 松岡辰郎 NTTファシリティーズ 下田 昇 NTTデータ 小田博志 フジタ 40	【品質評価手法研究部会】 オフィスビルのトイレは今 野瀬かおり ファシリティマネジメント総合研究所 43

グローバル化するFMと働き方の未来 森 太一 ジョーンズ ラング ラサール 38	龍ヶ崎市における施設マネジメントの実践 富山辰也 エフエムエンジニアリング 41	【CREマネジメント研究部会】 CREマネジメントから見た働き方改革と企業経営 大野晃敬 東京オペラシティビル 佐藤俊朗 ジョーンズラング ラサール 百嶋 徹 ニッセイ基礎研究所 43
V-up×FM Part2 昨年報告した会議室の カラ予約は削減したか? 佐藤好浩 CBRE 金 英範 日産自動車 38	PPPで働き方改革のきっかけを -上下昇降デスクの 導入・検証- 枝松久雄 流山市 41	【FM戦略・企画研究部会】 都市経営と公共FM戦略 -都市・地域の 持続可能性への貢献- 高藤真澄 NTTファシリティーズFMアシスト 吉田 淳 サイマックス不動産総合研究所 他 44

オフィス系3部会合同講演 働き方を変えるワークプレイス -経営と社員のハビネスを 実現し持続するFM手法- 【オフィス・ワークプレイスの 知的生産性研究部会】 齋藤敦子 コクヨ 他 【FMプロジェクトマネジメント研究部会】 吉井 隆 西日本電信電話 他 【人と場へのFM投資価値研究部会】 岡田大士郎 ファシリティ・オフィ スサービス・コンソーシアム 他 39	イノベーションを生むまち -越境する個人と ファシリティ- 小野真司 大成建設 41 リコーのまちづくりへの 取組み -その進める地域 創生とまちづくり- 内田定一 リコージャパン 42	【コンピュータ活用研究部会】 ファシリティマネジメントで 使うICTシステムいろいろ 「FMで活用するICTシステム」 -出版記念講演会- 天神良久 ケーデーシー 森本卓雄 アルファ・アソシエイツ 木村圭介 FMシステム 秋山克己・小木曾清則 日本メックス 井野昭夫 構造計画研究所 大田 武 プロバティデータバンク 44
---	--	--

展示会

1F 展示ホール

10:00
↓
18:00

ドリンク
コーナー
未来の
オフィス
コンテスト
作品展示

特別講演



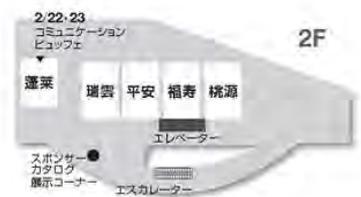
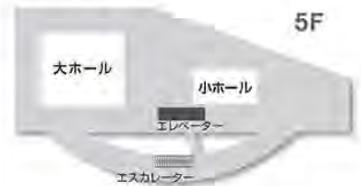
森 民夫
元長崎市長
筑波大学・
立教大学客員教授

特別講演



田澤 由利
株式会社
レゾナンス・マネジメント
代表取締役

フロア案内



2/22日(木)~23日(金) 展示会 / カタログ展示

展示会 47~53

1F ホール

22日(木)

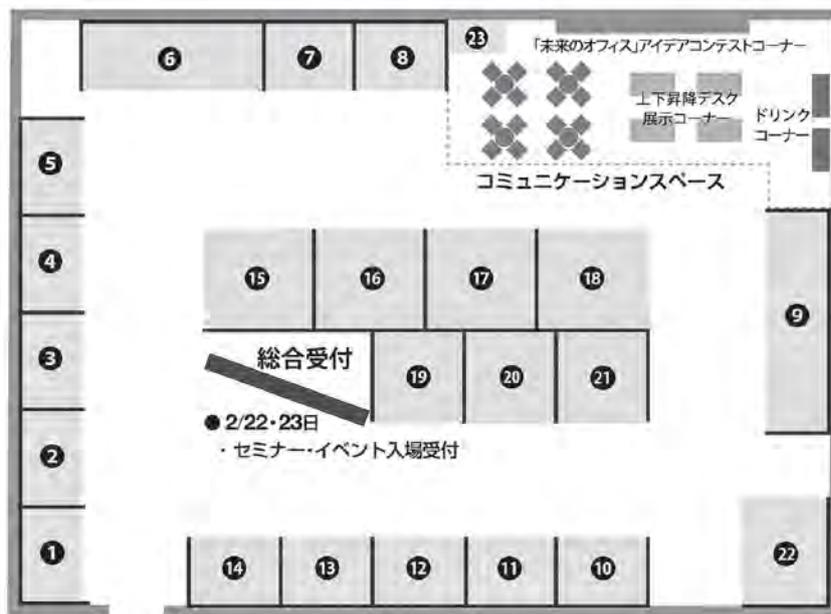
オープニングセレモニー

9:30- 9:50

開催 10:00-18:30

23日(金)

開催 10:00-18:00



展示会出展企業名

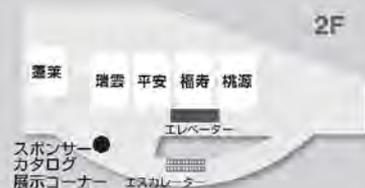
① リユース・ハートナー(株)	⑨ 共立建設(株)	⑰ (株) NTTファシリティーズ
② (株) FMシステム	⑩ JR東日本ビルテック(株)	⑱ (株) 岡村製作所
③ 福井コンピュータアーキテクト(株)	⑪ プロパティデータバンク(株)	⑲ 日本メックス(株)
④ (株) ディー・サイン	⑫ (株) フロンティアコンサルティング	⑳ (株) 山下ビー・エム・コンサルタンツ
⑤ 高砂熱学工業(株)	⑬ 日比谷総合設備(株)	㉑ (株) イトーキ
⑥ 大成建設(株)	⑭ 住友セメントシステム開発(株)	㉒ (株) 内田洋行
⑦ (株) エコ・24	⑮ リコージャパン(株)	㉓ (株) Offisis
⑧ (株) スターメンテナンスサポート	⑯ コクヨ(株) / コクヨ&パートナーズ(株)	ドリンクバー提供 MARS ジャパンリミテッド

カタログ展示コーナー 会場: 2F ロビー

スポンサー企業紹介 (50音順)

株式会社イトーキ
株式会社内田洋行
株式会社 NTTファシリティーズ
株式会社 FMシステム
株式会社 Offisis
株式会社 コンステックホールディングス
サイマックス不動産総合研究所
株式会社 スターメンテナンスサポート
住友セメントシステム開発株式会社

大成建設株式会社
高砂熱学工業株式会社
日本メックス株式会社
福井コンピュータアーキテクト株式会社
プロパティデータバンク株式会社
プラス株式会社ファニチャーカンパニー



3. ウィークリーセミナー

FM最新話題に関するウィークリーセミナーを、見学セミナーも含めて下表のとおり開催した。受講者総数は241名。

場 所	J F M A 会議室 (但し、見学会は現地)		
参加費用	会員 2,000 円 非会員 3,000 円		
1	テ ー マ	J F M A 賞のツボを知る。J F M A 賞の受賞事例から学ぶ。	
	開 催 日	平成 29 年 4 月 12 日	受 講 者 数 10 名
	講 師	J F M A 専務理事 成田 一郎	
2	テ ー マ	今、見直しを求められる BCP	
	開 催 日	平成 29 年 4 月 26 日	受 講 者 数 24 名
	講 師	一般社団法人リーガル・リスクマネジメント研究機構 森 健	
3	テ ー マ	第 11 回 J F M A 賞 優秀 FM 賞受賞 【見学会】 「FM による健康経営の実現－FHAB を中心として－」 株式会社フジクラにおける見学会	
	開 催 日	平成 29 年 5 月 24 日	受 講 者 数 14 名
	講 師		
4	テ ー マ	第 11 回 J F M A 賞 技術賞 「輻射空調による快適性と省エネの両立ができるワークプレイスの実現」	
	開 催 日	平成 29 年 5 月 31 日	受 講 者 数 9 名
	講 師	株式会社トヨックス 岩田博樹	
5	テ ー マ	第 11 回 J F M A 賞 優秀 FM 賞受賞 【見学会】 「FM による価値創造を目指した研究開発棟 (SKT 棟) の構築」 コニカミノルタ株式会社における見学会	
	開 催 日	平成 29 年 6 月 14 日	受 講 者 数 20 名
	講 師		
6	テ ー マ	第 11 回 J F M A 賞 優秀 FM 賞受賞 「文化財として保存した庁舎の活用と FM サイクルの浸透 －鬼北町庁舎再生への取組み－」	
	開 催 日	平成 29 年 6 月 28 日	受 講 者 数 11 名
	講 師	愛媛県鬼北町 善家直邦	
7	テ ー マ	IoT と最新テクノロジーが働き方を変える IoT 活用による業務改革	
	開 催 日	平成 29 年 7 月 5 日	受 講 者 数 16 名
	講 師	(株)ウフル IoT イノベーションセンター 松浦真弓	
8	テ ー マ	第 11 回 J F M A 賞 優秀 FM 賞受賞 【見学会】 「ICT を活用した “Smart & Safety” な FM の実践」 株式会社 NTT ファシリティーズにおける見学会	
	開 催 日	平成 29 年 7 月 12 日	受 講 者 数 12 名
	講 師		
9	テ ー マ	FM で初めての国際規格 ISO41000 シリーズの概要について	
	開 催 日	平成 29 年 7 月 19 日	受 講 者 数 22 名
	講 師	J F M A ISO 推進室長 川村正夫	
10	テ ー マ	温暖化防止・省エネ・省コストの現状と今 第 1 回目	
	開 催 日	平成 29 年 7 月 26 日	受 講 者 数 25 名
	講 師	イオン株式会社 上田奈穂子	
11	テ ー マ	温暖化防止・省エネ・省コストの現状と今 第 2 回目	
	開 催 日	平成 29 年 8 月 2 日	受 講 者 数 15 名
	講 師	経済産業省関東経済産業局資源エネルギー環境部 小林 護 東京都環境局地域エネルギー課 宮田博之	

12	テ ー マ	2018 年賃貸オフィスマーケット動向と展望		
	開 催 日	平成 30 年 1 月 10 日	受 講 者 数	28 名
	講 師	三幸エステート株式会社 今関豊和 株式会社ザイマックス不動産総合研究所 石崎真弓		
13	テ ー マ	なぜうまくいかないのか？イノベーションの場づくり		
	開 催 日	平成 30 年 1 月 24 日	受 講 者 数	19 名
	講 師	コクヨ株式会社 齋藤敦子		
14	テ ー マ	セゾン情報システムズオフィス 【見学会】		
	開 催 日	平成 30 年 3 月 28 日	受 講 者 数	16 名

4. 専門分野特別セミナー

J F M A の 15 調査研究部会の研究成果を、テーマ別に「J F M A F M 秋の夜学校」とする公開セミナーを下表のとおり開催した。受講者総数は 313 名。

J F M A F M 秋の夜学校

場 所		J F M A 会議室		
参 加 費 用		会員 2,000 円 非会員 3,000 円		
1	テ ー マ	【 F M 秋の夜学校 2017 】第 1 回 出版記念講演 FM で活用する ICT システム		
	開 催 日	平成 29 年 9 月 6 日	受 講 者 数	27 名
	部 会 名	コンピュータ活用研究部会		
	講 師	コンピュータ活用研究部会 部会長 天神良久 (株ケー・デー・シー) 同 森本卓雄 (有アルファ・アソシエイツ) 同 阿部純一 (株オーイーシー)		
2	テ ー マ	【 F M 秋の夜学校 2017 】第 2 回 出版記念講演 FM で活用する ICT システム		
	開 催 日	平成 29 年 9 月 13 日	受 講 者 数	25 名
	部 会 名	コンピュータ活用研究部会		
	講 師	コンピュータ活用研究部会 部会長 天神良久 (株ケー・デー・シー) 同 木村圭介 (株 FM システム) 同 井野昭夫 (株構造計画研究所)		
3	テ ー マ	【 F M 秋の夜学校 2017 】第 3 回 「公共施設等総合管理計画策定内容から見た計画考察と公共施設最適化事業計画事例及び民間主導型の街づくりす指針事例の紹介」		
	開 催 日	平成 29 年 9 月 27 日	受 講 者 数	20 名
	部 会 名	公共施設 FM 研究部会		
	講 師	公共施設 FM 研究部会 部会長 安藤秀徳 (東京美装興業株)		
4	テ ー マ	【 F M 秋の夜学校 2017 】第 4 回 「オフィスのトイレを語ろう」		
	開 催 日	平成 29 年 10 月 4 日	受 講 者 数	19 名
	講 師	品質評価手法研究部会 部会長 野瀬かおり (ファミリーマネジメント総合研究所)		
5	テ ー マ	【 F M 秋の夜学校 2017 】第 5 回 「B I M は FM の強い味方」		
	開 催 日	平成 29 年 10 月 25 日	受 講 者 数	27 名
	部 会 名	B I M ・ FM 研究部会		
	講 師	B I M ・ FM 研究部会 部会長 猪里 孝司 (大成建設株)		

6	テ ー マ	【 FM 秋の夜学校 2017 】第 6 回 「健康経営を支える場の力」		
	開 催 日	平成 29 年 11 月 1 日	受 講 者 数	17 名
	部 会 名	ユニバーサルデザイン研究部会		
	講 師	ユニバーサルデザイン研究部会 部会長 似内志朗 (日本郵政(株))		
7	テ ー マ	【 FM 秋の夜学校 2017 】第 7 回 「人間の創造性を発揮させるワークプレイス」		
	開 催 日	平成 29 年 11 月 8 日	受 講 者 数	9 名
	部 会 名	人と場への FM 投資価値研究部会		
	講 師	人と場への FM 投資価値研究部会 部会長 岡田大士郎 (一般社団法人ファシリティ・オフィスサービス コンソーシアム副代表理事)		
8	テ ー マ	【 FM 秋の夜学校 2017 】第 8 回 「もうパッチワーク仕事はこりこり」		
	開 催 日	平成 29 年 11 月 10 日	受 講 者 数	4 名
	部 会 名	FM プロジェクトマネジメント研究部会		
	講 師	FM プロジェクトマネジメント研究部会 部会長 吉井隆 岡田明浩 (竹中工務店)、黒田綾子 (フリストル・マイヤーズ・スクイブ) 長坂将光 (グラクソススクライ)、穂積義剛 (内田洋行)		
9	テ ー マ	【 FM 秋の夜学校 2017 】第 9 回 「道路維持管理の日米比較」		
	開 催 日	平成 29 年 11 月 15 日	受 講 者 数	2 名
	部 会 名	インフラマネジメント研究部会		
	講 師	インフラマネジメント研究部会 渡邊 大介 (株ガイアート)		
10	テ ー マ	【 FM 秋の夜学校 2017 】第 10 回 「病院の現場からー FM 手法を使ってみたら」		
	開 催 日	平成 29 年 11 月 22 日	受 講 者 数	15 名
	部 会 名	ヘルスケア FM 研究部会		
	講 師	ヘルスケア FM 研究部会 森佐絵 (多摩医療 PFI(株))		
11	テ ー マ	【 FM 秋の夜学校 2017 】第 11 回 「大学の施設管理における大学の FM 財務評価」		
	開 催 日	平成 29 年 11 月 27 日	受 講 者 数	11 名
	部 会 名	キャンパス FM 研究部会		
	講 師	キャンパス FM 研究部会 一箭憲作 (コクヨマーケティング(株))		
12	テ ー マ	【 FM 秋の夜学校 2017 】第 12 回 「環境建築～サステイナブル都市の評価・認証」		
	開 催 日	平成 29 年 11 月 28 日	受 講 者 数	4 名
	部 会 名	エネルギー環境マネジメント研究部会		
	講 師	エネルギー環境マネジメント研究部会 塚田敏彦 (株NTT ファシリティーズ 総合研究所)		
13	テ ー マ	【 FM 秋の夜学校 2017 】第 13 回 「ファシリティマネジャーのための運営維持入門」 その 2		
	開 催 日	平成 29 年 11 月 29 日	受 講 者 数	9 名
	部 会 名	FM 戦略企画研究部会		
	講 師	FM 戦略企画研究部会 部会長 高藤真澄 (株NTT ファシリティーズ FM アシスト)		
14	テ ー マ	【 FM 秋の夜学校 2017 】第 14 回 「FM 財務評価と企業財務の基本」		
	開 催 日	平成 29 年 12 月 6 日	受 講 者 数	23 名
	部 会 名	FM 財務評価手法研究部会		
	講 師	FM 財務評価手法研究部会 部会長 松成 和夫 (フ ロート ・ コンサルティング)		

15	テ ー マ	【 FM 秋の夜学校 2017 】第 15 回 「FMにおけるリスクマネジメント災害対応と事業継続の取組み」		
	開 催 日	平成 29 年 12 月 12 日	受 講 者 数	7 名
	部 会 名	リスクマネジメント研究部会		
	講 師	リスクマネジメント研究部会 部会長 上倉 秀之 (㈱セノン)		
16	テ ー マ	【 FM 秋の夜学校 2017 】第 16 回 「ファシリティマネジャーのための運営維持入門」その 2		
	開 催 日	平成 29 年 12 月 13 日	受 講 者 数	11 名
	部 会 名	運営維持手法研究部会		
	講 師	運営維持手法研究部会 部会長 吉瀬 茂 (JP ビルマネジメント㈱)		

JFMA FM 秋の夜学校 スペシャルin大阪・名古屋

場 所		マイドームおおさか		
参 加 費 用		無料		
1	テ ー マ	【 FM 秋の夜学校 2017 】スペシャル in 大阪 出版記念講演 FMで活用する ICT システム		
	開 催 日	平成 29 年 12 月 7 日	受 講 者 数	54 名
	部 会 名	コンピュータ活用研究部会		
	講 師	コンピュータ活用研究部会 部会長 天神良久 (㈱ケー・デー・シー) 森本貞雄 (㈱アルファ・アソシエイツ)、木村圭介 (㈱FMシステム)、 秋山克己 (日本メックス㈱)、小木曾清則 (日本メックス㈱) 井野昭夫 (構造計画研究所)、大田 武 (プロパティデータバンク㈱)		
場 所		名古屋商工会議所		
参 加 費 用		無料		
2	テ ー マ	【 FM 秋の夜学校 2017 】スペシャル in 名古屋 出版記念講演 FMで活用する ICT システム		
	開 催 日	平成 29 年 12 月 8 日	受 講 者 数	29 名
	部 会 名	コンピュータ活用研究部会		
	講 師	大阪会場に同じ		

5. ファシリティマネジメント上級セミナー

ファシリティマネジメントの専門分野について、『経営的視点から見る環境・イノベーション』というテーマで、上級者向けのセミナーを行った。企業、大学、官庁等で専門分野の最先端で活躍する方々を講師陣とし、今期は11月に3日間で開催した。受講者総数は60名。

2017年FM上級セミナー/認定ファシリティマネジャー (CFMJ) CPD 研修

場 所		JFMA 会議室		
受 講 料		会員 30,000 円 非会員 45,000 円 (6 講義全日受講)		
開 催 日		平成 29 年 11 月 2 日	受 講 者 数	20 名
1	テ ー マ	フィンテックからFMテックへ		
	講 師	プロパティデータバンク㈱ 代表取締役社長 板谷敏正		
2	テ ー マ	BIMで進化するFM		
	講 師	大成建設㈱ 設計本部 企画部 企画推進室長 猪里孝司		
開 催 日		平成 29 年 11 月 10 日	受 講 者 数	19 名
3	テ ー マ	海外FM最前線—欧米から アジアFM市場の激変		
	講 師	日本オフィス学会会長/㈱松岡総合研究所 代表取締役 松岡利昌		

4	テ ー マ	FMのISO最前線		
	講 師	JFMA ISO推進室長 川村正夫		
開 催 日		平成29年11月17日	受 講 者 数	21名
5	テ ー マ	グローバル化するFMビジネス CBREの場合		
	講 師	シービーアールイー(株) エンタープライズファシリティマネジメント シニアソリューションズ アドバイザー 清水正樹		
6	テ ー マ	グローバル化するFMビジネス JLLの場合		
	講 師	ジョーンズラングラサール(株) ファシリティマネジメント コーポレートソリューションズ ソリューションズデベロップメント ディレクター 森 太一		

6. 公共向けFMセミナー

「公共施設等総合管理計画」策定後の対応について建築、土木インフラともに実践事例の紹介となるシンポジウムを平成29年11月に沖縄で開催した。受講者数は82名。

「公共FMシンポジウム」IN沖縄

～公共施設等総合管理計画のその後を実例から考えるー箱物からインフラまで～

場 所		国立劇場おきなわ		
参 加 費 用		無料		
開 催 日		平成29年11月1日	受 講 者 数	82名
1	テ ー マ	趣旨説明		
	講 師	成田一郎 JFMA専務理事		
2	テ ー マ	インフラメンテナンス国民会議が目指すもの		
	講 師	鈴木 学 (国土交通省 総合政策局公共事業企画調整課事業 総括調整官)		
3	テ ー マ	有料道路の運営と所有の視点からインフラのマネジメントを考える		
	講 師	中川 均 (JFMA インフラマネジメント研究部会長/㈱ガイアート 顧問)		
4	テ ー マ	青森県のFMの取り組みと庁舎の長寿命化・減築例		
	講 師	駒井裕民 (青森県総務部行政経営管理課 総括主幹)		
5	テ ー マ	東北の復興とFMと南三陸町新庁舎		
	講 師	小永井耕一 (JFMA公共施設FM研究部会員/元南三陸町東京都派遣建築職)		
6	テ ー マ	パネルディスカッション 沖縄の状況報告及び各講演者への質疑応答		
	講 師	コーディネーター: 小野尋子 (琉球大学工学部環境建設工学科 准教授) パネリスト: 鈴木 学、中川 均、駒井裕民、小永井耕一 中村朝光 (うるま市 企画部資産管理課 課長)、 仲田一郎 (㈱久米電装 代表取締役)		

7. JFMA FMサマースクール2017

FM・総務サービスを、組織内で実践する上で必要な基本エッセンス (基本ビジネス能力、ホスピタリティ能力、FM専門知識) を集中して学ぶ「JFMA FMサマースクール2017」を、計6日間開催し、延べ123名が受講した。

名 称	JFMA FMサマースクール2017
1 日 目	平成29年8月25日 10:30~17:20

講師と内容	1時限 FMガイダンス (FM概観)	成田一郎 JFMA 専務理事
	2時限 ホスピタリティ解体新書	佐藤昌弘 (株)JTB コーポレートソリューションズ
	3時限 ホスピタリティ能力自己診断	
	4時限 ユーザーの声を聞く・聴く・訊く	
2 日 目	平成 29 年 8 月 26 日 10:30~17:20	
講師と内容	1時限 経営戦略、マーケティング	飯尾英樹 IIMO 代表
	2時限 人材マネジメント	
	3時限 オペレーションマネジメント、管理会計	
	4時限 統計学	
3 日 目	平成 29 年 9 月 1 日 10:30~17:20	
講師と内容	1時限 企業人としての影響力	飯尾英樹 IIMO 代表
	2時限 ビジネスに必要な「感性」 コミュニケーションー1	
	3時限 ビジネスに必要な「感性」 コミュニケーションー2	
	4時限 FMとMBA	川村 裕 ジョンズ・ラング・ラザール
4 日 目	平成 29 年 9 月 2 日 10:30~17:20	
講師と内容	1時限 ファシリティマネジャーの 心構え ー日本企業と外資のFMの違いー	大森 崇史 (株)ジェネラルサービスズ シニアファシリティマネジャー
	2時限 FMの視点と手法	似内志郎 日本郵政(株)不動産企画部長
	3時限 POEとブリーフィング (プログラミング)	成田一郎 JFMA 専務理事
	4時限 BCP立案(事業継続計画)	森 健 (一社)リーガル・リスクマネジメント研究機構 代表理事 森総合研究所代表
5 日 目	平成 29 年 9 月 8 日 10:30~17:20	
講師と内容	1時限 FM財務戦略	松成和夫 プロコト・コンサルティング代表
	2時限 FMワークプレイス戦略	大川 徹 (株)竹中工務店 ワークプレイス・ロテュース本部長
	3時限 FM CRE戦略	板谷敏正 プロパティ・テークバンク(株) 代表取締役社長
	4時限 LCCO ₂ とLCC	横山計三 工学院大学 教授
6 日 目	平成 29 年 9 月 9 日 10:30~17:20	
講師と内容	1時限 プロジェクトマネジメント	金 英範 日産自動車(株)コーポレートサービス 統括部 主幹 山田教彰 キリアト・サイエンス シニア ファシリティマネジャー
	2時限 BIMのFMへの活用	猪里孝司 大成建設(株)設計本部 企画部企画推進室長
	3時限 ISOとSLA/KPI	川村正夫 JFMAISO 推進室長
	4時限 経営とFM ーグローバル化を考えるー	松岡 利昌 (株)松岡総合研究所 代表取締役

受講料	会員 60,000円	非会員 70,000円	学生 20,000円
場所	JFMA会議室		
受講者延数	123名		

8. ミニFMフォーラム

地方でのFMの普及・定着を目指し「ファシリティマネジメントは経営を活性化する！」をテーマとし、特に経営者・総務担当者に対して、JFMA各委員長が参集し、FMの見地から経営に役立つ様々な考え方を紹介する『ミニFMフォーラム』を平成29年10月～12月にかけて広島市・仙台市・福岡市の3か所で開催した。受講者総数は92名。

場所	①広島会場 広島YMCA国際文化センター ②仙台会場 仙都会館 ③福岡会場 アクロス福岡		
参加費用	無料		
開催日	①平成29年10月21日 ②平成29年11月25日 ③平成29年12月16日	受講者数	①28名 ②24名 ③40名
1	テーマ 講師	FMの基本的考え方と事例 成田一郎 JFMA専務理事	
2	テーマ 講師	FMは経営マインドとユーザーマインドで 川村 裕 (JFMA教育研修委員)	
3	テーマ 講師	企業不動産 (CRE) は戦略的に 板谷敏正 (JFMA FM推進戦略委員長)	
4	テーマ 講師	ワークスタイルで会社を変える 齋藤敦子 (JFMA広報委員長) ※仙台会場のみ「重綱鉄哉 (JFMA教育研修委員長)」	
5	テーマ 講師	健康経営は組織を強靱化する 似内志朗 (JFMA調査研究委員長)	
6	テーマ 講師	パネルディスカッション 各講演者への質疑応答を中心に情報共有 コーディネーター：成田一郎 パネリスト：川村 裕、板谷敏正、齋藤敦子 (※仙台会場のみ重綱鉄哉)、 似内志朗	

9. 健康経営シンポジウム

健康経営を人の視点 (Well-being) と経営の視点の両面から検証し、ファシリティマネジメントの見地から、真に次世代のワークスタイルとしての定着を目指し、健康経営の最新情報、考え方、取り組み事例等を紹介するシンポジウムを、平成29年8月～12月にかけて都内各所にて5回開催した。受講者総数は235名

場所	第1回 コクヨ品川ライブオフィス「SHIPP」		
参加費用	1,000円 (会員、非会員とも)		
開催日	平成29年8月5日	受講者数	48名
1	テーマ 講師	趣旨説明「なぜ健康経営が必要なのか」 成田一郎 JFMA専務理事	
2	テーマ	政策立案者から	

	講 師	小林耕太（経済産業省 商務情報政策局 商務・サービスグループヘルスケア産業課 係長）		
3	テ ー マ	J F M A から		
	講 師	似内志朗（J F M A 調査研究委員長、日本郵政株式会社不動産企画部長）		
4	テ ー マ	コンサル・実践から		
	講 師	高原 良（株式会社イトーキ R&D 戦略企画部 Ud&Eco 研究開発部、健康運動指導士）		
5	テ ー マ	シニアビジネスから		
	講 師	足立 研（株式会社日本経済社 経営企画室長）		
6	テ ー マ	パネルディスカッション 各講演者への質疑応答を中心に情報共有		
	講 師	コーディネーター：成田一郎 パネリスト：小林耕太、似内志朗、高原 良、足立 研		
場 所		第2回 イトーキ東京イノベーションセンター SYNQA（シンカ）		
参 加 費 用		1,000 円（会員、非会員とも）		
開 催 日		平成 29 年 9 月 16 日	受 講 者 数	54 名
1	テ ー マ	趣旨説明「健康経営を人の視点から検証する」		
	講 師	齋藤敦子（J F M A 広報委員長、コクヨ株式会社ワークスタイル研究所）		
2	テ ー マ	健康経営から		
	講 師	浅野健一郎（株式会社フジクラ 人事部健康経営推進室副室長）		
3	テ ー マ	ハピネスから		
	講 師	矢野和男（株式会社日立製作所 研究開発グループ技師長 ／東京工業大学大学院連携教授）		
4	テ ー マ	ポジティブ・メンタルヘルスから		
	講 師	西本真寛（株式会社 Campus for H リサーチ・マネージャー）		
5	テ ー マ	パネルディスカッション 各講演者への質疑応答を中心に情報共有		
	講 師	コーディネーター：齋藤敦子 パネリスト：浅野健一郎、矢野和男、西本真寛		
場 所		第3回 内田洋行 東京ユビキタス協創広場 CANVAS		
参 加 費 用		1,000 円（会員、非会員とも）		
開 催 日		平成 29 年 10 月 7 日	受 講 者 数	51 名
1	テ ー マ	趣旨説明「健康経営・国内外オフィス家具メーカーの取り組み」		
	講 師	仲田裕紀子 J F M A ジャーナル編集長		
2	テ ー マ	スチールケースの取り組み		
	講 師	伊藤政人（日本スチールケース株式会社 セールスマネージャー）		
3	テ ー マ	ハーマンミラーの取り組み		
	講 師	松崎 勉（ハーマンミラーージャパン株式会社 代表取締役社長） 久保田 彩（同社 ディーラービジネスマネージャー）		
4	テ ー マ	ヴィトラの取り組み		
	講 師	片居木 亮（Vitra 株式会社 代表取締役）		
5	テ ー マ	オカムラの取り組み		
	講 師	武田浩二（株式会社岡村製作所 マーケティング本部 ソリューション戦略部 販促企画室 室長 +Standing コンシェルジュ）		
6	テ ー マ	内田洋行の取り組み		
	講 師	中家良夫（内田洋行健康保健組合 事務長）		

7	テ ー マ	パネルディスカッション 各講演者への質疑応答を中心に情報共有		
	講 師	コーディネーター：仲田裕紀子 パネリスト：伊藤政人、久保田 彩、片居木 亮、武田浩二、中家良夫		
場 所		第4回 スクウェア・エニックスセミナールーム		
参 加 費 用		1,000円（会員、非会員とも）		
開 催 日		平成29年11月11日	受 講 者 数	35名
1	テ ー マ	趣旨説明「健康経営の先進的な取り組み事例」		
	講 師	重綱 鉄哉 JFMA教育研修委員長、株式会社イトーキ企画本部長室 室長		
2	テ ー マ	総務省の取り組み		
	講 師	松本 惇（総務省 行政管理局 企画調整課 副管理官）		
3	テ ー マ	スクウェア・エニックスの取り組み		
	講 師	岡田 大士郎（株式会社スクウェア・エニックス 総務部長）		
4	テ ー マ	マースジャパンの取り組み		
	講 師	常木 一成（マースジャパンリミテッド マースドリンクス代表）		
5	テ ー マ	シマノの取り組み		
	講 師	神保 正彦（株式会社シマノ バイシクルコンポーネンツ事業部 企画部長）		
場 所		第5回「健康経営を実現する健康建築・ワークプレイス」		
参 加 費 用		1,000円（会員、非会員とも）		
開 催 日		平成29年12月9日	受 講 者 数	47名
1	テ ー マ	趣旨説明「健康経営を実現する健康建築・ワークプレイス」		
	講 師	似内 志朗（JFMA調査研究委員長、日本郵政株式会社 不動産企画部長）		
2	テ ー マ	働き方が変わり、街も暮らしも変わる中での性能評価の使われ方とFMの活動領域		
	講 師	平松宏城（㈱ヴォンエルフ 代表取締役、 一般社団法人グリーンビルディングジャパン（GBJ）共同代表理事 LEED フェロー、USGBC ファカルティ、LEED AP BD+C, ND）		
3	テ ー マ	働く人と企業、双方から求められる WELL ワークプレイスとは		
	講 師	奥 錬太郎（シービーアールイー株式会社 ワークプレイス・ストラテジー アソシエイト ディレクター）		
4	テ ー マ	健康経営は都市空間と建築をどう変えるか		
	講 師	黒木正郎（株式会社日本設計 執行役員フェロー）		
5	テ ー マ	パネルディスカッション 各講演者への質疑応答を中心に情報共有		
	講 師	コーディネーター：似内志朗 パネリスト：平松宏城、奥 錬太郎、黒木正郎		

10. 通信教育

時間的、距離的な制約によりセミナーに参加できない方々を対象に、ファシリティマネジメントの基礎知識を習得できる通信教育を下記のとおり実施した。平成29年度は前年度からの継続者への対応となった。

- (1) 講座名 通信教育「ファシリティマネジメント基礎」コース
- (2) テキスト 「総解説ファシリティマネジメント」及び「総解説ファシリティマネジメント追補版」
- (3) 学習方法 予め作成したファシリティマネジメントに関する問題に答えることにより学習を進める。受講者は、JFMAに質問することができる。

- (4) 受講者募集 随時
- (5) 受講料 34,616 円 (テキスト配布) 27,216 円 (テキスト配布なし)
- (6) 受講者数 27 名

付 4 . 表彰事業

付4 表彰事業

ファシリティマネジメントに関する優れた業績及び功績のあった組織と個人を年1回表彰する。この表彰の制度を日本ファシリティマネジメント大賞（JFMA賞）と呼ぶ。

2006年(平成18年)に創設以来、2018年までに12回実施し、すでに156件を表彰している。候補案件の募集は公募を原則とし、産官学から招いた有識者11名を審査委員とする審査委員会において、授賞を審議する。

1) 表彰の種類

a. 優秀ファシリティマネジメント賞（公募）

ファシリティマネジメント手法を取入れ、優れた成果を上げている活動を表彰する。このうち特に優れた活動を「最優秀賞（鵜澤賞）」とする。該当なしの場合もある。

総合的かつ継続的にファシリティマネジメントが定着し経営に貢献しているか、コアビジネスへの貢献はあるか、ファシリティの利用者への貢献はあるか、ファシリティマネジメントの推進体制（組織、財務管理、情報管理、標準と規程管理等）を整備したか、ファシリティマネジメントサイクル（PDCA）を回しているか、時代のニーズに対応しているか、新規性・独創性があるかの視点で審査。

b. 技術賞（公募）

ファシリティマネジメントに関する、新しい手法・技術の取組みを表彰する。

ファシリティマネジメントの手法・技術の開発・普及に貢献するものか、新規性・独創性はあるかの視点で審査。

c. 功績賞（公募）

ファシリティマネジメントに関する優れた論文（博士論文及び同等以上の論文）、出版、その他の活動を表彰する。

ファシリティマネジメントの推進、普及に貢献するものかの視点で審査。

d. 特別賞（非公募）

優秀ファシリティマネジメント賞・技術賞・功績賞の応募の中から、ファシリティマネジメントの特定分野において優れた成果を上げ、特別に表彰すべきと認められる取組みを表彰する。

e. 特別功労賞（非公募）

ファシリティマネジメントの普及・拡大等に顕著な功績があった個人及び組織を表彰する。

f. 奨励賞（非公募）

優秀ファシリティマネジメント賞、技術賞、功績賞の応募の中から、今後の発展が期待されるものを表彰する。

2) 概 要

目	的	FMに関する優れた業績及び功績のあった組織と個人を表彰することにより、日本国内におけるFMの普及発展に資する。	
対	象	目的（日本国内におけるFMの普及・発展に資する）に合致した、日本に拠点を置く組織・個人とする。 ただし、海外の取組み・活動であっても、特段に、日本国内におけるFMの普及・発展に貢献したと認められる場合は、表彰の対象とすることができる。	
表 彰 の 種 類 (公募)	優 秀 F M 賞	FM手法を取入れ、優れた成果を上げている活動を表彰する。 このうち特に優れた事例を「最優秀賞(鶴澤賞)」とする。	
	技 術 賞	FMに関する、新しい手法・技術の取組みを表彰する。	
	功 績 賞	FMに関する優れた論文、出版、その他の活動を表彰する。	
募 集 期 間	平成 29 年 7 月 1 日～8 月 31 日		
応 募 者 数	優秀FM賞:13 件, 技術賞:3 件, 功績賞:3 件 計 19 件		
発 表	平成 29 年 12 月 20 日		
表 彰	平成 30 年 2 月 23 日 「ファシリティマネジメントフォーラム 2018」にて		
後 援	経済産業省・国土交通省		
審 査 委 員	委 員 長	北川 正恭	早稲田大学 名誉教授
	副 委 員 長	深尾 精一	首都大学東京 名誉教授
		安達 功	株式会社日経 BP 執行役員
		鎌田 元康	東京大学 名誉教授
		川元 茂	国土交通省大臣官房 官庁営繕部長
		栗田 豊滋	経済産業省 製造産業局 生活製品課 企画官
		長澤 泰	工学院大学理事名誉教授・東京大学名誉教授
		村田 博文	株式会社財界研究所 代表取締役
		柳澤 忠	名古屋大学・名古屋市立大学 名誉教授
		米倉 誠一郎	法政大学大学院教授・一橋大学特任教授
	成田 一郎	(公社)日本ファシリティマネジメント協会 専務理事	

3) 受賞者

賞の種類	タイトル	F M実践組織・個人	サービス提供者
最優秀 F M賞 (鶴澤賞)	ひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイス ～「アクションの連鎖」～	武蔵野市 公益財団法人 武蔵野生涯学習振興 事業団	・(有)kwhg アーキテツク ・Cafe Fermata
優秀 F M賞	創造的 F M手法による公民の パートナーシップの実現 ー我が国最大の病院 PFI 事業ー	多摩医療 PFI(株)	・清水建設(株)
優秀 F M賞	グループ協働を促進する F M ～その会話から生まれる 未来 とつながる～	キューピー(株)	・大成建設(株) ・コクヨ(株)
特別賞	魚町サンロード商店街における リノベーションまちづくり事業	魚町サンロード 商店街協同組合	・(株)鳥町ストリートアライアンス ・(株)北九州家守舎 ・鳥町四丁目町内会 ・鳥町まちづくり会議 推進協議会 ・東京美装興業(株)
特別賞	築 100 年を目指すビンテージ ビル「冷泉荘」における F Mの 取組み	吉原住宅(有) (株)スペース R デザイン	ー
技術賞	原状回復研究所 ～遊休資産の利活用～	リユース・パートナー(株)	ー
功績賞	公共施設マネジメントを実行に 移すための解説書	早稲田大学 理工学研究所 公共所有不動産の 経営研究 (MoRE)	ー
功績賞	F M推進につながる発注者改革 への提言 (学位論文)	日本郵政(株) 本社移転推進室長 齋藤 隆司	ー
奨励賞	全社事業所施設ファシリティの 統括管理活動の実践	富士ゼロック(株)	ー
奨励賞	ファシリティマネジメントによる エンゲージメント経営の実践	(株)リンクアントモチベーション	・(株)ディー・サイン ・(株)イーキ
奨励賞	時代を先取りする働き方変革を 推進・進化させる F M	(株)リクルートホールディングス	・(株)コスモスア ・(株)フロンティアコンサルティング
奨励賞	新社屋による全社員の交流力・ 創造力・発信力を高める働き方 改革	(株)三枝協	・明豊ファミリーワークス(株) ・矢作建設工業(株) ・(株)ウチタシステムズ ・(株)スマイルメーカー
奨励賞	(技術) LCM 支援システム共同開発による 計画保全業務の実践と運用	阪神高速技術(株) かいせき屋倶楽部	ー

以上、計 13 件。

付 5 . 調査研究事業

付5 調査研究事業

1. 調査研究部会活動

調査研究部会は次の3分野18部会である。

■調査研究部会活動報告

	名称	概要
1	(マネジメント研究分野) FM戦略企画 研究部会	<p>《部会長 高藤眞澄》</p> <p>■メインテーマ 都市・地域経営と公共FM戦略 ・サブテーマ：都市・地域の持続可能性と公共FM戦略 「都市・地域の縮退」傾向になりつつある今日、都市経営目標としての持続可能性の向上は極めて重要なテーマである。2015年国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」に「G11：住み続けられるまちづくり」が設定されている。都市・地域の持続可能性の向上に必要な要件を明らかにすること、即ち、これからの都市・地域に求められる「地域の価値」を検討すること、そしてそのために公共FM戦略が貢献できることを明らかにしたい。</p> <p>■活動内容 原則、毎月1回の部会開催において、自主研究の発表と意見交換、研究テーマに関連した情報交換、外部専門家による講演の実施等を行い、部会としての研究テーマに対する検討を進めた。以下にその概要を示す。</p> <p>・4/26 村林正次氏講演（株価値総合研究所 主席研究員） テーマ：公民連携による地域創生プラットフォーム「PRE活用における公民連携の現状と地域活性化に向けた今後の可能性を期待する。 自治体の各種政策との関係、民間提案の反映、都市間競争対応のためには、日常的・持続的な官民相互の情報交換・計画立案・事業創生等のためのプラットフォームが必要であり、国や自治体等で取組みが始まる。」</p> <p>・5/1 小永井耕一氏講演 東京都復興支援対策部派遣建築職（宮城県南三陸町派遣） テーマ：東日本大震災における復興まちづくりと公共FM戦略（現状と課題）被災地ごとに状況が異なる中で復興の進捗も異なることを前提に、比較的進捗が早い南三陸町の復興状況とまちづくりについての報告、住居の安全を優先した高台移転にまちづくりがどのようにできるかが今後の課題であろう。</p> <p>・6/26 保井美樹氏講演（法政大学教授 エリアマネジメントNW 副代表） テーマ：人口減少期の地方都市のサステナビリティに向けたまちづくりとエリアマネジメントの可能性 「人口減少時代に選ばれるエリアは固有な価値がある地域である。 ⇒地域資源を最大限に生かしたアセットマネジメントでエリアの体験価値を上げることが重要である。そのためには民の主体的活動を基本に公民連携による実施体制が必要である。」</p> <p>・6/29 村井 遊氏講演（会津若松市 企画政策部） テーマ：『スマートシティ会津若松』の取組～データ活用を軸とした新たな産業集積への挑戦～ スマートシティの政策を地域経済・社会・教育・文化等に幅広く展開しつつ、日本初のICT専門の会津大学や民間企業とのプ</p>

		<p>プラットフォームを構築して、公民学連携による ICT 活用・データ活用したサービス等を実現している。結果として新たな産業集積や人材育成と雇用、社会生活の安全と便利を実現しつつある。持続可能性が高く期待できる地域づくりを実行している。</p> <p>・ 12/25 上田博和氏講演（夕張再生の会 代表理事） テーマ：夕張の現状と再生への取り組み状況 炭鉱が最盛期のピーク時、約 14 万人の人口が現在、9 千人程度まで減少し、毎年 200－250 人程度の減少が継続しており、持続可能性が危うい。ただし、住み続ける住民もいて「再生の会」の活動などにも参加しており、期待もできる。千歳空港に近いこと、自然環境に恵まれていること、映画祭などのイベントの実績もあることなど地域の魅力を生かした再生活動の今後次第で、真に再生が起こる可能性がある。</p> <p>・ 自主研究 テーマ - 1：夕張市の財政再建と地域再生（検討委員会報告） 財政破たんに至る経緯を、再生破綻が地域社会に与えた影響を確認しつつ、地域再生への希望と期待を込めた報告内容である。</p> <p>テーマ - 2：大船渡市エリアマネジメント 大船渡地区津波復興拠点整備事業基本計画(案) H25.08) 大船渡地区津波復興拠点の全体整備方針 その 8：エリアマネジメントの導入：良好な維持管理・運営に向けて、街を育てていくためのエリアマネジメントの仕組みを整備します。 復興の進捗と良好な街づくりに向けて市が拠点整備エリアを買い取り、店舗地代収入の一部を財源にエリアマネジメントを実施している。</p> <p>テーマ - 3：まちづくり 3 法の概要と効果 中心市街地の衰退と大規模小売店舗の郊外立地の隆盛に対する規制制度。 外資系大規模小売店舗の出店圧力も背景にあり。 売上が減少傾向にある状況下にも拘らず出店数は増加し続けている。⇒業界競争？ まちづくり 3 法は中心市街地の衰退を抑制することにはつながらず、郊外への大規模出店に対応する結果となる。 時代状況の動向は法律や制度では止められない？ 時代を動かすエンジンを活かした形で社会・都市を作ることが重要か？</p>
--	--	---

2	<p>(マネジメント研究分野)</p> <p>FMプロジェクト マネジメント研究部会</p>	<p>《部会長 吉井 隆》</p> <p>■メインテーマ 企業オフィスの日常管理における、「定常的な課題解決」と「次の改善整備」に向けた知見を集積し、企業のFM向上に寄与することを目的に、インハウスF Mer と外部PMサービス提供者(50:50)の幅広い見地を成果としてまとめ養成普及に努める</p> <p>■活動内容</p> <p>見る 各賞受賞企業、各部会員企業への視察訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概ね月例の部会を各企業・サードプレイス会場で実施※7社訪問 (ギリアド・サイエンシズ、内田洋行、フロンティアコンサルティング、ルクサ、グラクソ・スミスクライン、ボストン・サイエンティフィックジャパン、アステラス・アムジェン・バイオファーマ) <p>聴く オフィス整備基本計画での他部会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FM先駆者、有識者、他部会を含めたゲストスピーカー招致 ※上記訪問の中で各社ファシリティマネジャーの講話(インハウスとサプライアの認識ずれを把握) (経営のハピネスを考えるワークショップ) <p>促す フォーラム講演・出版セミナー開催等による養成普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テンプレート集の普及セミナー 秋の夜学校、ファシリティマネジメントフォーラム2018での講演 <p>営む 出版したテンプレート集について、月例会部会内でフェーズごとの更なる深掘り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部会員間の情報共有方法の整備 ・陥り易い落とし穴(falls)と解決時のコツ(Tips)の体系化 ・オフィス日常管理の「定常的な課題解決」と「次の改善整備」に向けた知見集積 ・PMBOK 学習
---	--	---

3	<p>(マネジメント研究分野)</p> <p>リスクマネジメント 研究部会</p>	<p>《部会長 上倉秀之》</p> <p>■メインテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レジリエンスに関する研究と事業継続に関する報告書の改訂 ・「帰宅困難者施設受け入れ」に関する検討 ・災害時の災害弱者対策の検討 <p>■活動内容</p> <p>月例の研究部会を開催し、部会員企業が提供した資料等の検討と意見交換を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レジリエンスに関する研究と事業継続に関する報告書の改訂 熊本地震等の事例も踏まえ、施設の災害対策・対応の事例研究と、火山噴火・風水害等の対応について報告書記載事項の追加を検討した。 ・「帰宅困難者施設受け入れ」に関する検討 災害時の帰宅困難者受け入れに関する施設側対応について地域・施設の防災訓練の実例等について検討した。 ・災害時の災害弱者対策の検討 部会員企業の事例等について検討した。 ・防災訓練の取り組みについて 災害対応訓練についてファシリティマネジメントフォーラム 2018 で発表した。
4	<p>(マネジメント研究分野)</p> <p>エネルギー環境保全 マネジメント研究部会</p>	<p>《部会長 横山健児》</p> <p>■メインテーマ</p> <p>平成 28 年度の調査研究項目として持続可能な社会の現状と未来について取り上げ、持続可能な社会の更なる発展には生態系を考慮した総合的なソリューションが必要であると認識できた。そこで、平成 29 年度は、エネルギー、水、資源、大気を 4 大テーマとして、持続可能な社会を支えるファシリティマネジメントのあり方等についての調査研究を行う。</p> <p>■活動内容</p> <p>平成 29 年度は、建材・資材、空気、水、エネルギー供給、街づくりをテーマに持続可能な社会のあり方について調査研究を行った。結果として、サービスに内包する環境価値の重要性を見出した。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①建材・資材：「建築内包エネルギーと CO2 排出量」の評価手法である Embodied Energy/GHG Emissions (EEG) に注目。 ②空気：製品の安全を確保する衛生管理手法である HACCP（ハサップ）を調査。 ③水：トイレの洗浄水量は材質や構造の改良で 60 年前と比べ約 1/5 に削減されていることからトイレの節水技術に注目。 ④エネルギー供給：省エネ情報提供サービス、地球温暖化対策メニュー等が 100%再生可能エネルギー電気とセットで提供され始めていることを調査。 ⑤街づくり：エリア開発の評価システムである LEED ND 認証、生物多様性のハビタット（JHEP）認証の取得、河川水温度差エネルギーの活用、生物多様性に配慮した街づくりやお濠の浄化、既存中小規模ビルの省エネ化における事例を調査。 これらの調査結果を基に、今後はこれらの価値を再評価することと、新たな内包する環境価値を創出することが持続可能な社会の実現には重要であることを見出し、この内容を「ファシリティマネジメントフォーラム 2018」で提言した。

5	<p>(マネジメント研究分野)</p> <p>CRE マネジメント 研究部会</p>	<p>《部会長 大野晃敬》</p> <p>■メインテーマ 中長期的な視点に立脚して企業活動を支えると共に、企業価値向上に貢献することを目的とした“企業不動産（CRE）マネジメント”に関する体系的な手法研究及び国内企業への普及・促進。</p> <p>■活動内容</p> <p>①CRE マネジメントに関する最新事例調査 CRE マネジメントに関する最新事例の調査研究。具体的な調査対象は以下を実施。参加委員による討議や意見交換を促進しつつ、最新の手法を研究した。 昨今の働き方改革の取り組みの中で、不動産賃貸市場での最新の動きであるサービスオフィス、シェアオフィスのサイト見学を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「不動産投資市場の成長に向けたアクションプラン（国交省）」（5/30） ・「新宿パークタワー戦略的価値増大への取り組み（東京ガス都市開発）」（7/31） ・「CRE 戦略と不動産テック（プロパティデータバンク）」（9/28） ・「グローバルトレンドから読み取るテナントの働き方改革が求めるオフィスとは（JLL）」（11/14） ・「第一生命の不動産投資における ESG 取組（第一生命）」（12/5） ・「クリエイティブオフィスのすすめ（ニッセイ基礎研）」（2/23） ・「不動産投資市場の成長に向けたアクションプラン（国交省中間取り纏め）」（2/28） ・「LIFORK 大手町 最新サービスオフィス見学（NTT-UD 大手町）」 <p>②CRE マネジメントの普及・促進 27 年度に編纂した CRE マネジメントハンドブックを広く公開、頒布するとともに、今研究部会における最新研究を紹介するなど、JFMA 会員企業ならびに多くの国内企業に対して CRE マネジメントの有効性を PR する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ファシリティマネジメントフォーラム 2018 にて「CRE マネジメントから見た働き方改革と企業経営」を講演
---	--	---

6	<p>(マネジメント研究分野)</p> <p>人と場へのFM投資 価値研究部会</p>	<p>《部会長 岡田大士郎》</p> <p>■メインテーマ 人間の感性や行動、更にはウェルビーイングに焦点をあてたFM投資の在り方を探り、知識創造活動を支える「場」への投資意義とその投資効果を可視化することによりFM経営を推進する。</p> <p>■活動内容</p> <p>1. 情報収集及び意見交換 月1回を基本に研究部会を開催し、先行研究事例の紹介とワールドカフェスタイルでの意見交換とナレッジ共有を図った。 (事例： スクウェア・エニックス/ソニー本社)</p> <p>2. 情報発信 ・ファシリティマネジメントフォーラム2018において他研究部会と合同でパネルディスカッションを実施。 ・以下のテーマでJFMAジャーナルへの投稿並びにパブリック向けに発信 (SNS、オンラインFM媒体) 「場」の理論とワークプレイス コミュニケーションデザイン 人事制度とワークスタイル 組織風土と企業文化 健康、行動、幸福度の可視化</p> <p>3. FOOSCとの連携 「幸福働」プレゼンテーション</p> <p>4. 書籍出版に向けたコンテンツ蓄積</p>
7	<p>(マネジメント研究分野)</p> <p>こころとからだの ウェルビーイング 研究部会</p>	<p>《部会長 高原 良》</p> <p>■メインテーマ ファシリティマネジメントを通じて、人々のウェルビーイング (身体的、精神的、社会的に良好な状態) の実現に貢献し、笑顔と活力の溢れる社会を実現する。</p> <p>■活動内容 新規部会員募集中。</p>

8	<p>(マネジメント研究分野)</p> <p>インフラマネジメント 研究部会</p>	<p>《部会長 中川 均》</p> <p>■メインテーマ 昨年に引き続き「社会に役立つFM」の実現に向けて、老朽化の進んだインフラに対し官民連携を基本に、包括維持管理によるインフラマネジメント手法の導入を目指し、地方自治体に対するヒアリング、FM的な側面からインフラマネジャー育成、及びISOの活用等について調査研究を実施する。</p> <p>■活動内容 ・当部会員と連携し公共FMシンポジウム IN 沖縄を開催、国交省「インフラメンテ国民会議」と共催し各自自治体先行事例を地元自治体と共有化した。 ・公共FM部会と合同でファシリティマネジメントフォーラム2018にて講演を実施した。(北米の道路アセットマネジメント及び香港におけるMOM契約の実情) ＊MOM：メンテナンス・オペレーション・マネジメント ・インフラメンテ初級技術者、公共インフラに関わる行政職員向けの教本の企画作業を終了、出版に向け編集開始した。 ・秋の夜学校にての「北米における道路維持管理」を実施した。 ・公共FMシンポジウム IN 沖縄にて「白糸ハイランドウェイ」ISO55001の事例を自治体向けに報告・展開した。 ・引き続き上記公認フォーラムに実行委員を派遣するとともに新たに発足した「海外市場展開フォーラム」に派遣することとした。</p>
9	<p>(施設事例研究分野)</p> <p>キャンパスFM 研究部会</p>	<p>《部会長 藤村達雄》</p> <p>■メインテーマ 大学経営をFMの視点から支援するために、次項を行う。 ○啓発普及：大学の経営陣並びに、施設及び財務の職員が、キャンパスFMを意識し、その必要性を認識させる。 ○研究開発：キャンパスFMを実施する際に必要となる概念・手法等を確立させる。 ○支援活動：施設に係る業務の変革や、キャンパスFMの創造を目指す大学等を支援する。</p> <p>■活動内容 ○ベンチマーキング分科会 ・インタビューの実績 明治学院大学（横浜キャンパスにおける学習空間の改善。〔ラーニングコモンズの活用・運用〕）。 ○保全業務分科会 ・インタビューの実績 共立女子大学（100%出資会社による施設運用等。〔ウィズ・ケイ〕） ○キャンパスFM財務勉強会 部会員において、私立大学における学校会計基準、経営判断指標等について勉強会を実施。 ○秋の夜学校 「大学のFM財務評価～ファシリティコスト評価を中心に～」と題し、部会員（一箭憲作氏）によるFM財務評価、学校法人会計の概要と私立大学の財務分析評価例に関するセミナーを行う。</p>

10	<p>(施設事例研究分野)</p> <p>ヘルスケアFM 研究部会</p>	<p>《部会長 上坂 脩》</p> <p>■メインテーマ 健康・医療・福祉に関わる施設経営戦略を包括的に扱うHCFMの導入・普及</p> <p>■活動内容 「内なるFM、外へのFM」の充実 ー病院支援を拡大して病院経営層へ成果を還元</p> <p>1. ヒトとICTとファシリティ 医業経営コンサルタント協会・医療福祉設備協会・医療福祉建築協会等との連携を充実させ、本流となる日本看護協会・病院管理学会・集団災害医学会等との連携を拡大させる。</p> <p>2. パワーアップ 部会の病院オブザーバー交流による病院院関連団体との支援リングを充実して、病院インハウスメンバー（看護師、認定ホスピタルホスピタルエンジニア、臨床工学士等々）の部会員参加を増大させ、病院課題への深耕を図る。</p> <p>3. バリューアップ コアとなる「病院FM先進事例紹介」「病院ファシリティマネージャに必要な資質」研究を「病院LCMモデル」、「ヘルスケアリート」「機能更新を含む病院長寿命化ツール」3ワーキングGが中心となり活動を展開して成果を報告する 具体化には、固有人脈を活用した関連学会・団体・組織との相互講演等により付加価値を向上して、部会公開セミナーによるヘルスケアFMの普及を図り、研究領域の深耕と共に公共FMへの病院支援モデルを実地試行 認定ファシリティマネージャ資格習得を支援し、研究支援活動の基本的な資質を向上。</p>
----	---	--

<p>11</p>	<p>(施設事例研究分野)</p> <p>公共施設FM研究部会</p>	<p>《部会長 安藤秀徳》</p> <p>■メインテーマ パブリックFMの普及推進と安心・安全の社会に向けた公有資産の品質向上への取り組み調査・研究</p> <p>■活動内容</p> <p>1. 方針</p> <p><input type="checkbox"/>最新動向と長期的な継続調査・研究の両立を目指す</p> <p><input type="checkbox"/>パブリックFMの普及推進の実践役として、各自治体への調査、支援事業の展開</p> <p><input type="checkbox"/>公共特別会員への情報提供、情報収集及び支援の実施</p> <p><input type="checkbox"/>関連団体、大学、研究機関、官民連携及びJFMA他部会との連携、特にインフラマネジメント部会との情報交流、検討会等を持ち、インフラと箱物との関係性等を探りインフラマネジメント部会との連携を深める。</p> <p>2. アクション</p> <p><input type="checkbox"/>パブリックFMに関する情報としてHPのJFMAインフォを通じた情報の受発信の実施（広報機能の充実、仕組みの構築）</p> <p><input type="checkbox"/>公共特別会員への情報の提供、セミナーの実施</p> <p><input type="checkbox"/>各自治体からのパブリックFMの導入実施の調査(主に公共施設等の総合管理計画に伴う実施事例や官民連携等による施設づくり、地域づくり等)</p> <p><input type="checkbox"/>各自治体のFM推進状況の調査（施設の有効活用、用途変更、ストックマネジメント手法等）</p> <p><input type="checkbox"/>以下2年計画で実施・検討を行う</p> <p>各自治体を3区分し、人口④30万～50万人、⑤10万～15万人、⑥5万人程度 のパブリックFMの活動、実践状況の調査を行い、比較・検討・分析を行い、特徴・違い等の分析の実施、パブリックFMの各自治体の傾向・問題点等の分析の実施。</p>
-----------	-------------------------------------	--

12	<p>(施設事例研究分野)</p> <p>ユニバーサルデザイン 研究部会</p>	<p>《部会長 似内志朗》</p> <p>■メインテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークプレイスのユニバーサルデザインの価値を明らかにし、道具立てをつくる（研究部会ミッション／不変）。 ・健康経営・ウェルビーイング（H29年度まで（一部延長））。 <p>■活動内容</p> <p>（健康経営タスクフォースと一体化した部会活動）</p> <p>◎健康経営シンポジウム「人間と経営のためのファシリティマネジメント」を開催。官僚・研究者・企業経営者・ファシリティマネジャー・建築家・医療関係者・オフィス家具メーカーなど20名の専門家からの講演・ディスカッションを実施。 （ユニバーサルデザイン研究部会の定例会を兼ねる）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 なぜ健康経営が必要なのか(4講) 2017. 8. 5 ・第2回 健康経営を「人」の視点から検証する(5講) 2017. 9. 16 ・第3回 国内外オフィス家具メーカーの取り組み(4講) 2017. 10. 7 ・第4回 健康経営の先進企業の取り組み(3講) 2017. 11. 11 ・第5回 健康経営を実現する健康建築・ワークプレイス(3講) 2017. 12. 9 <p>◎ユニバーサルデザイン・健康経営の活動(JFMA関連)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JFMA FM秋の夜学校「健康経営を支える場の力」 ・ファシリティマネジメントフォーラム2018 ：健康経営シンポジウム「健康経営とウェルビーイング」 ・ファシリティマネジメントフォーラム2018 ：「健康経営とファシリティマネジメント」(研究部会) ・新部会「こころとからだのウェルビーイング研究部会」の立上げ支援。 ・JFMAジャーナルR3「健康経営を生み出す場の力～経営・人・社会の視点から健康経営の構造を解く～」 ・JFMAジャーナル(ファシリティマネジメントフォーラム)記録「健康経営とウェルビーイング」 ・シンポジウム記録「トップランナーに学ぶ健康経営」の企画・発刊準備 <p>◎ユニバーサルデザイン・健康経営の活動(JFMA外)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017. 11. 10 KFMAシンポジウム「健康経営とウェルビーイング」 ・2017. 11. 15 ユーザー懇談会講演「健康経営」 ・2018. 3. 8 JLLアカデミー講演・ディスカッション「日本の働き方改革を支えるワークプレイスとは～日本の働き方改革を支えるワークプレイスとは」 ・日本建築学会「建築雑誌」2017年10月号 中邑賢龍×似内志朗「近未来のオフィスを考える～働き方／組織／空間」 ・産業保険と介護 2018 vol. 10「オフィス環境改善のアイデア」
----	--	---

<p>13</p>	<p>(固有技術研究分野) 運営維持手法研究部会</p>	<p>《部会長 吉瀬 茂》</p> <p>■メインテーマ ～『納得感のもてる最良の運営維持』を目指して～ ユーザーの視点に立ったファシリティ運営維持業務とその評価に関するあり方を探る</p> <p>■活動内容 ～コミュニケーションツールで『きっかけづくり』 人と社会との関わりを良好に保つために～</p> <p>①コミュニケーションツールを基に「身近な省エネルギー～取組へのヒント～」をテーマとして、資料収集とともにWGを設置して5回の会合を開催し研究活動を行なった。 また、その活動成果としてウィクリーセミナー（12/13 秋の夜学校）及びファシリティマネジメントフォーラム 2018 で、「～運営維持の視点で『きっかけづくり』～実務者が語る身近な省エネルギーの話し-その2-」と題して取り組み成果の紹介を行った。</p> <p>②①にあげるコミュニケーションツールの理念を基にして、継続したトライアルを実施し取組事例として取りまとめた。</p> <p>③テーマに関連する分野の専門家等を部会へ招聘し、セミナーを7回開催し意見交換を行った。</p>
-----------	----------------------------------	---

<p>14</p> <p>(固有技術研究分野)</p> <p>品質評価手法研究部会</p>		<p>《部会長 野瀬かおり》</p> <p>■メインテーマ オフィス・ワークプレイスを中心にしたファシリティの品質について考える。</p> <p>■活動内容</p> <p>(1) 主な検討事項 「社員の健康を支えるファシリティ」について情報を持ち寄った。本年度は、その際、最も注目を集めたトイレについて検討することとし、品質部会が提案している7つの評価軸を基に、評価手法の開発を行った。 平成29年度は、ハードについて評価項目を検討した。部会員の意見のみで作るのではなく広い視点を加えるべきであるという考えから、フォーラムで項目に対する意見をアンケートで集めた。 また、LIXILを訪問し、専門家からトイレに関する世の中の一般的な状況や課題について情報収集した。</p> <p>(2) 合宿及び見学会の実施 ワークプレイスの現場として庁舎の見学会を行った。 8月には、合宿を行い、南三陸町新庁舎、防災庁舎の遺構などを見学した。その際、東日本大震災の復興の様子を視察した。 2月には、千葉縣市原市に新設された防災庁舎の見学を行った。</p> <p>(3) 部会開催回数 月に一度の割合で計10回の部会を開催した。部会の開催場所はJFMA事務局を基本とし、大阪及び仙台からはスカイプによる参加があった。 その他、東北で合宿を実施、千葉縣市原市の庁舎見学を行った。 また、部会開催以外にも、メーリングリスト上での情報提供、意見交換を積極的に行っている（年度内メール数は384通）。</p> <p>(4) 部会員の人数 現在19名（東京14名、大阪3名、仙台1名、名古屋1名）の部会員が参加して活動を行っている。 平成29年度は、秋の夜学校、ファシリティマネジメントフォーラム2018、庁舎見学で各1名、合計3名の新部会員を迎えた。</p> <p>(5) グループウェアの利用 グループウェアを利用して、議事録や会議資料などの情報共有を継続している。新しい部会員にも、過去の検討経緯がわかるため、好評である。</p>
---	--	---

15	<p>(固有技術研究分野)</p> <p>FM財務評価手法 研究部会</p>	<p>《部会長 松成和夫》</p> <p>■メインテーマ FM財務評価のさらなる普及をめざす (わかりやすさと裾野の拡大)</p> <p>■活動実績</p> <p>①「公式ガイド ファシリティマネジメント」の新訂に伴うFM財務評価手法の改訂を反映した「FM財務評価ハンドブック」の改訂準備(構成検討)</p> <p>②リース会計基準の変更など財務関連情報の収集・研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新リース会計基準は、米国会計基準、IFRSで2019年より導入。日本での導入時期は未定だが調査情報を共有し議論を行った。 ・その他、FM財務関連情報の収集・研究 ・オフィス不動産の持分保有動向 ・オフィスビル市場の動向 <p>③ファシリティマネジメントフォーラム2018での発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「公式ガイド ファシリティマネジメント」の新訂に伴うFM財務評価手法の内容を中心に講演を実施。
16	<p>(固有技術研究分野)</p> <p>オフィス・ワーク プレースの知的生産性 研究部会</p>	<p>《部会長 齋藤敦子》</p> <p>■メインテーマ 知的生産性を支えるワークプレイス・モデル「SOF」(ワークスタイル、組織、ファシリティ)の研究開発と、実践のためのツールづくり。また、知的生産性に関する関連団体との情報交流、ファシリティマネジメントフォーラム、オフィス学会や建築学会等での研究成果の発表。</p> <p>■活動内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 月1回程度の研究会の開催 ワークプレイスと知的生産性に関するトレンド調査や意見交換 メンバー企業のオフィス訪問など 2. 分科会でのSOFモデルの検討 項目のスクリーニングを目的としたアンケート調査実施 SOFの項目毎ステージ評価システムの作成 3. 外部研究機関との協働 オフィス学会や建築学会等での発表とフィードバック 4. 研究成果の発表 ファシリティマネジメントフォーラム2018、オフィス学会、建築学会での発表 JFMAジャーナルへの執筆 5. 公式ガイドブック「ファシリティマネジメント」への掲載 これまでの生産性評価手法と合わせて掲載

17	<p>(固有技術研究分野)</p> <p>コンピュータ活用 研究部会</p>	<p>《部会長 天神良久》</p> <p>■メインテーマ 「FM領域に係わる ICT 新技術の調査」 「CAF Mシステムの活用事例の調査」 「Eco・Lcc 削減を可能にする環境配慮型 ICT 新技術の調査」</p> <p>■活動内容 出版 平成 29 年 7 月 7 日 「FMで利用する ICT システム」出版 →平成 30 年 3 月末 490 冊完売 (500 冊印刷) 出版記念講演会 1. 平成 29 年 9 月 16 日 秋の夜学校 J F M A 会議室 2. 平成 29 年 12 月 7 日 マイドームおおさか 3. 平成 29 年 12 月 8 日 名古屋商工会議所 4. 平成 30 年 2 月 23 日 ファシリティマネジメントフォーラム 2018</p> <p>勉強会・見学会 平成 29 年 4 月 「i-ARM ～建築設計の各種検討と確認が行える シンプル BIM～」 平成 29 年 6 月 「人工知能の現状と実情」 平成 29 年 7 月 「レンガの街 深谷周辺のレンガ建築視察」 平成 29 年 10 月 「公共 ROA のベンチマークデータ収集と AI に よる試行分析」 平成 29 年 12 月 「IBM Watson(A I : 人工知能) を利用した工 場の設備管理システム」 平成 30 年 1 月 「スマートグラスを活用したビルメンテナンス」 平成 30 年 3 月 「オープンデータ利活用事例の新展開」</p>
18	<p>(固有技術研究分野)</p> <p>B I M ・ F M 研究部会</p>	<p>《部会長 猪里孝司》</p> <p>■メインテーマ B I M ・ F M 連携ガイドライン作成 B I M ・ F M 連携による B I M 及び F M の高度化</p> <p>■活動内容 研究部会を月 1 回開催し、「ファシリティマネジメントのための B I M 活用ガイドライン」の作成に向け、コンセプト・構成・ 内容について議論した。F M での B I M 活用は公表されている 事例が少ないが、部会員が試行している事例等公表されていな い事例について情報共有した。B I M が活用できる F M 分野を 以下のように絞り込んだ。 ・ 修繕更新計画：費用算定、計画作成、計画説明 ・ 区画管理：賃貸、持ち分、用途、工事 ・ 故障対応：突発的故障時の原因究明、修理対応 ・ 履歴管理：工事、修繕の記録の位置情報 ・ 情報管理のインデックス：図面、マニュアル、履歴 ・ 台帳の元データ</p> <p>ガイドラインでは、関係者の役割や BIM 実行計画のひな型を 提示し、実務で活用できるよう簡潔にまとめる方針である。</p>

2. ファシリティマネジメント国際標準化（ISO）への対応

FMのISO国際標準化並びに新しいFMのマネジメント規格に対する意見集約のため、国内専門委員会を2回開催した。

また、マレーシア・クアラルンプールで開催したISO/TC267 ファシリティマネジメント国際全体会議に参加し、「ISO/FDIS 41001 FMマネジメントシステム最終国際規格原案」の作成作業に参画した。

3. 海外ファシリティマネジメント調査団

海外におけるファシリティマネジメント先進事例を調査・研究すると共に、海外のファシリティマネジメント関係者と交流しネットワークを構築することにより、わが国のファシリティマネジメントの発展に資するため、海外を対象に調査団を次のとおり派遣した。

- (1) テーマ : 米国FM・不動産視察調査
- (2) 訪問先 : カリフォルニア州サンフランシスコ市・サンノゼ市、
テキサス州ヒューストン市
- (3) 期間 : 平成29年10月14日～21日
- (4) 参加人数 : 24名
- (5) 視察調査場所（視察のポイント）
 - ・サンフランシスコ市
 - ① ケーブルカー博物館（建築物構造）
 - ② JWマリオットホテル（ホテル経営戦略）
 - ③ サンフランシスコジャイアンツスタジアム（建築物構造）
 - ④ カリフォルニア科学アカデミー（建築物構造）
 - ・サンノゼ市
 - ⑤ インテル(株)（健康経営）
 - ⑥ シスコシステムズ(株)（健康経営）
 - ・ヒューストン市
 - ⑦ BOMA : Building Owners & Managers Association（ビル管理）
 - ⑧ 大型商業施設ギャラリー（施設管理）
 - ⑨ ジョンソンスペースセンター（テクノロジーと建築）
 - ⑩ IFMA World WorkPlace セミナー（オフィス、健康経営、他）
 - ⑪ IFMA World WorkPlace 展示会（FMサービス、ISO活用）
 - ⑫ オフィスビル1100 Louisiana（ビル管理）

付 6 . 広報事業

付6 広報事業

1. ファシリティマネジメントに関する広報事業

ファシリティマネジメントに関する広報を目的として、ホームページの開設運用、メールマガジンの定期的な発行、機関誌の定期的な発行、新聞雑誌等マスコミへの広告、ファシリティマネジメントフォーラムを活用した情報発信と展示会及び地方自治体等公共機関への訪問広報等を行った。

2. 機関誌「JFMAジャーナル」の定期的な発行

「JFMAジャーナル」は、FMに関する最新情報を特集形式で取り上げ、FMの本質と時代性を反映させると共に、JFMAからのメッセージを発信している。特に、FM知識・情報の集積と保存性を考慮すると共に、内容の読みやすさ、理解のしやすさ、美しさを考慮したデザインを目指している。

今期は、春号（4月）、夏号（7月）、秋号（10月）及び冬号（1月）の年4回季刊誌を、調査研究部会特集として別冊R3（9月）を次のとおり発行し、会員に頒布した。

春号（3,300部）特集：ファシリティマネジメントフォーラム2017 特集号
第11回 日本ファシリティマネジメント大会

夏号（3,300部）特集：まちづくりを担う公共図書館とFM
図書館に学ぶ場づくりと価値創造

別冊（3,000部）特集：JFMA調査研究活動（研究部会）の活動紹介

秋号（3,300部）特集：FM視点で考えるこれからのワークプレイス①
人財の力を最大化するための場づくり

冬号（3,600部）特集：FM視点で考えるこれからのワークプレイス②
まちにつながるワークプレイス

3. Web版「JFMAジャーナル・オンライン」の運用

紙ベースの機関紙「JFMAジャーナル」が年4回、季刊で発行するが、JFMAからの周知事項、会員情報等をタイムリーに知らせる必要がある。そのために、インターネットを利用し、毎月Web上にタイムリーな情報を掲載する「JFMAジャーナル・ONLINE」を運用し、「JFMAジャーナル」のトピックスを中心に紹介するとともに、コラム「FM玉手箱」やセミナー報告などタイムリーな情報の提供を行った。

4. ホームページの運用

わが国を代表するファシリティマネジメント関連組織として、JFMAホームページは、平成29年度末実績で年間90万回のアクセスのあるウェブサイトとなっている。ファシリティマネジメントに関する情報、JFMAの主要な事業や行事に関する情報、調査研究成果に関する情報等の発信、各種提言内容の周知等を行うと共に、JFMAが蓄積した各種のファシリティマネジメント関連情報の検索、会員相互の情報交換の場として活用されている。

今期も引き続き、タイムリーな改定を行い、常に新鮮な情報の提供を行った。ホームページの主な構成は、次のとおりである。

(1) ファシリティマネジメント（FM）とは

- ① FMとはどのようなものか
- ② FMの必要性
- ③ FMの効果

(2) 協会概要

- ① 事業概要

- ② 基本情報及び組織
- ③ 定款・公開資料
- (3) J F M A 会員
 - ① 制度のご案内と特典
 - ② 会員一覧
 - ③ 入会お申込み
 - ④ 会員登録情報の更改
- (4) 認定ファシリティマネジャー資格
 - ① 概要
 - ② 資格者データ
 - ③ 資格試験
 - ④ 新規資格登録申請
 - ⑤ 登録資格更新
 - ⑥ I F M A / C F M 相互認証制度
 - ⑦ 資格登録情報の変更
 - ⑧ 求人情報
- (5) セミナー・報告会
 - ① ウィークリーセミナー
 - ・参加申込
 - ・開催記録
 - ② F M 上級セミナー
 - ③ F M 初級スクール
 - ④ 専門分野別セミナー（調査研究部会公開セミナー、F M 財務評価セミナー）
 - ⑤ 各種企画セミナー
- (6) 調査研究
 - ① 調査研究
 - ② 各研究部会・参加申込
- (7) ファシリティマネジメントフォーラム
 - ① ご案内と開催記録
- (8) J F M A 賞
 - ① 第 12 回日本ファシリティマネジメント大賞（J F M A 賞）受賞者発表
 - ② 応募要項
 - ③ 過去の日本ファシリティマネジメント大賞（J F M A 賞）の受賞者
- (9) 書籍・報告書
 - ① 書籍紹介
 - ② ご購入お申込み
- (10) 機関誌
 - ① 新着情報
 - ② J F M A J O U R N A L（ジャフマジャーナル）公開版 最新号
 - ③ バックナンバー
- (11) メールマガジン
 - ① ご案内
 - ② メンバー登録と配信先変更届け等
- (12) お問い合わせ
- (13) 事務局案内地図
- (14) サイトマップ

5. メールマガジンの定期的な発行

ファシリティマネジメントに関する最新情報を、一般向けメールマガジン「J F M A I L」として月平均 2 回、約 7,000 人の登録者へ合計 26 回発信した。

公共機関関係向けのメールマガジン「公共 F M 推進ネット」は毎月、246 団体の地方自治体等登録者約 250 人へ合計 16 回発信した。

年間の読者数は、「J F M A I L」が延べ約 168,000 人、「公共 F M 推進ネット」が延べ約 4,000 人と推定できる。

案内する情報の詳細は、J F M A ホームページにより掲載されているが、メールマガジンで

は最新の内容を簡潔に案内することにより、価値ある情報に利用者がアクセスしやすいように配慮している。

6. 「ファシリティマネジメントフォーラム 2018」のスポンサー募集とガイドブック等発行

「ファシリティマネジメントフォーラム 2018」開催にあたり、会員及び会員以外の企業を対象とし、51 社より数種類のスポンサー（ダイヤモンド、ゴールド、シルバー、おもてなし、オフィスオアシス）を募った。

フォーラムの参加者配布用に作成する「ガイドブック」には、セミナープログラム、セミナー概要や J F M A 賞受賞案件概要のほか、スポンサー企業の広告（企業のロゴと名称）を掲載し、スポンサーの広告は、フォーラム期間中、数枚のパネルに掲載し、会場内に掲示するとともに、ホームページに掲載する。パネルは一枚をフォーラム終了後一年間、J F M A 事務局の会議室壁面に継続掲示する。

ホームページでは、スポンサー企業のホームページとリンクさせる。

今期は、下記のとおり実施した。

(1) スポンサー

スポンサー (51 社)	
ダイヤモンド	(株)イトーキ、(株)内田洋行、(株)NTTファシリティーズ、(株)FMシステム、J R 東日本ビルテック(株)、大成建設(株)、プロパティデータバンク(株)、三菱地所(株)、森ビル(株) 計 9 社
ゴールド	イオンディライト(株)、イナバインターナショナル(株)、NTT都市開発(株)、(株)大林組、(株)岡村製作所、鹿島建設(株)、コクヨ(株)、(株)コンステックホールディングス、(株)ザイマックス、三機工業(株)、清水建設(株)住友セメントシステム開発(株)、高砂熱学工業(株)、(株)竹中工務店、日本郵政(株)、日本メックス(株)、日比谷総合設備(株)、福井コンピュータアーキテクト(株)、プラス(株)、三井不動産(株) 計 20 社
シルバー	総合警備保障(株)、(株)構造計画研究所、コニカミノルタ(株)、三幸エステート(株)、澁澤ファシリティーズ(株)、ジョーンズラングラサル(株)、新日本空調(株)、(株)スターメンテナンサポート、大星ビル管理(株)、東京美装興業(株)、ダイダン(株)、(株)ディー・サイン、東急不動産(株)、東京ガス都市開発(株)、(株)日建設計、(株)日本設計、(株)ビケンテクノ、ファシリティパートナーズ(株)、(株)山下ピー・エム・コンサルタンツ、リコージャパン(株) 計 20 社
おもてなし	MARS ジャパンリミテッド : 1 社
オフィスオアシス	(株)オフィス : 1 社

- (2) ガイドブック スポンサー広告を掲載するガイドブック 3,000 部発行
- (3) 広告パネル スポンサー広告を掲載するパネル 3 枚作成し期間中会場に掲示
一枚は持ち帰り J F M A 事務局会議室に一年間掲示
- (4) ホームページ 平成 30 年 1 月～3 月、スポンサー広告はホームページに掲載
し各企業ホームページとリンク
- (5) 機関紙 平成 30 年春号機関紙「J F M A ジャーナル」にスポンサー広告
を掲載

付 7 . 交 流 事 業

付 7 交流事業

今期は、主として下記の交流を行った。

(1) ファシリティマネジメントフォーラムにおける交流

ファシリティマネジメントフォーラム 2018 ネットワーキングパーティ

日 時	平成 30 年 2 月 22 日 (木) 18 時 30 分～20 時 30 分
会 場	タワーホール船堀 瑞雲の間
参加者	280 名
内 容	J F M A 賞受賞祝賀会を兼ね、経済産業省、国土交通省からの来賓、グローバル FM サミットに参加する米国、欧州、韓国、中国、タイの FM 協会関係者、J F M A 役員、J F M A 賞受賞者らがゲストとして参加。 一般のフォーラム来場者、法人会員、個人会員等との交流会を実施。

(2) 海外の FM 関連団体との交流

・ I F M A World Workplace 上海 (2017 年 9 月 14 日) に参加し講演を行うとともに、講演後には参加者と意見交換を行った。

プレゼンテーション

講師：松岡利昌 (J F M A 理事)

Global FM Business and Japan FM Future

セミナー、企業展示

- ・ 7 つのセミナーが開催されており、参加した。
- ・ Exhibition 会場で 12 社が企業展示を行っており、視察した。
中国のファシリティサービス企業が台頭している。

・ ファシリティマネジメントフォーラム 2018 のグローバル FM サミット (平成 30 年 2 月 22 日) において、米国、欧州、韓国、中国、タイの FM 協会関係者が来日し、各国の最新の FM 事情を発表して、意見交換を行った。

(3) その他

・ 国内 FM 関連団体 (北海道 FM 協会、四国 FM 協会他)、学会、大学、地方公共団体等とセミナーの講演等で交流した。